

(附錄第九號)

錦帶橋諷詠の文章、漢詩、
和歌、俳句、民謡、謠曲

序

此雅集は錦帶橋に關する古今の文人が其感興を歌うたものを集めたもので、文章、漢詩、和歌、俳句、民謡、謡曲等、大概是網羅したつもりである。猶漏れたものもあろうと思うが、著者としては百方搜索、遺すところなきを期したのであるから、錦帶橋ありて以來、此種の文献は殆んど此集に盡きて居ると思う。若しも未だ悉くさゝるものあらば大方の指教を乞う。後日再版の期あらば追加することにする。

此集の大部分を占めるものは漢詩である。其れは舊藩政時代の來遊者又は郷土人は概ね漢文學者であるから、自から其の應酬が漢詩となつて現われたのである。現代人は現代文學にいそしみ、漢詩の如きものには深い興味を有たず、而も漢學漸く衰えて時代歌調の流風盛んなるに當り、やゝ無用に見えるけれども過去に於て此の名橋を歌謡化するには、漢詩は唯一の詠詞であつたから、亦是れ錦帶橋史の片影總玉として茲に遺存する所以である。

著者の如きも漢學時代に人となり八十の老齢、尙且つ和漢詩人の遺帙を堆く書棚に陳列して風流を喜ぶ末班者であるから、此雅集にも青年時代より現在まで諷詠したものを各所に狹みて、百花絢爛の中へ雜草を交え自ら樂みを遣つた。平生、唐宋元明清各朝の詩聖を師範とし、之に擬して練達を期する癖あり、他にも其れに多くの和次したものもあるが、本集に於ては特に錦帶橋の其れを掇い來りて落葉を集むる内に、存外拙吟を聯ねるものが多篇なるを見るに至り、其數は自己獨吟のものを合せて一百八十一首に上つたことは、筆を投じて忸怩たるものがある。

和歌、俳句、民謡、謡曲等は現代人の物したるものも多いが、繙き來れば故人を幽明の境に隔てゝ其の聲を聞くの歎なきを得ないものもある。是の人々も漢詩人と齊しく、在りし日に於て吾人のように此名橋の邊りを徘徊して、山紫水明郷の五龍の姿を歎稱したことであろうと想え巴、この遺韻を寫しながらも思慕の情に堪えない。著者の如きも、人生を閱し盡して今や餘年幾ばくもなし。思うて此に至れば、後世の人此雅集を讀みて奈何の情を寄せてくれるであろうか。錦帶橋史を書き乍ら、筆者自身も亦いつしか史上の人となるを想うて感無量の中に筆を擋く。

昭和二十六年八月十八日早暁、陰曆七月十六日の殘月窓をのぞきて語るが如し

投筆長歎詩史人。此身何日也歸塵。

千篇留得名橋夜。殘月沈沈照紙巾。

八十一叟 岳淵生

目 次

○文 章 の 部

- 一、錦帶橋記 玉乃九華(一)
一、錦帶橋 山田青門(二)
一、錦帶橋記示清人某 香川琴山(三)

○漢 詩 の 部

- 一、觀錦帶橋 賴春水(四)
一、錦帶橋(二首) 中島櫻隱軒(四)
一、同 正墻適所(四)
一、岩國 阪谷朗廬(五)
一、錦帶橋 菅茶山(五)
一、同 劉夢澤(五)
一、錦帶橋歌(長吉) 江木鰐水(六)

- 一、錦帶橋引贈中島櫻軒 玉乃九華(六)
一、錦帶橋 玉乃五龍(七)
一、同(二首) 鹽谷老田(七)
一、同 佐武奚疑(八)
一、錦帶橋驟雨 飯田周水(八)
一、錦帶橋 森脇周德(八)
一、同 渡邊南山(八)

- 六、贈_ニ紫洋黃先生錦帶橋圖一並引……山縣溥泉……（八）
- 六、錦帶橋………青木錦村……（九）
- 六、同………新納時升……（九）
- 六、題_ニ錦帶橋圖………吳雲……（一〇）
- 六、錦帶橋長古………王治本……（一〇）
- 六、錦帶橋懷古………村田清風……（二）
- 六、題_ニ錦帶橋………蜀山人……（三）
- 六、錦帶橋………山田玄欽……（三）
- 六、題_ニ三戶當安翁所畫錦帶橋圖………山田新川……（四）
- 六、題_ニ錦帶橋………山田新川……（四）
- 六、巖國佐伯兩城以_ニ錦川人形石見……山田新川……（四）
- 六、贈同賦謝之………山田新川……（四）
- 六、人形石………鹽谷老田……（五）
- 六、同（二首）………王治本……（五）
- 六、錦帶橋畫贊………陸秋實……（六）
- 六、錦帶橋………張秋琴……（六）
- 六、錦帶橋納涼………綿引東海……（八）
- 六、錦帶橋………劉云高……（元）
- 六、題_ニ錦帶橋………熊谷玄旦……（八）
- 六、根笠行紀、殘夜發今津………一元和尚……（二〇）
- 六、同………前田慧雲……（西）
- 六、錦帶橋………島地默雷……（西）
- 六、同………松翁……（西）
- 六、同………圓覺清蔭……（西）
- 六、同………吉村弘毅……（西）
- 六、同………有馬燈村……（五）
- 六、同（狂詩二首）………靜間武奇陽……（五）
- 六、題_ニ自畫錦帶橋………大草小雲……（五）
- 六、同（二首）………南方一枝……（五）
- 六、題_ニ錦帶橋歌（長古）………南部五竹……（五）
- 六、過_ニ錦帶橋………玉乃九華……（毛）
- 六、示_ニ中島櫻軒………玉乃九華……（毛）
- 六、錦帶橋上………玉乃九華……（毛）

一、題錦帶橋圖	鹽田隨齋(元)
一、錦帶橋雪月圖爲岩國二宮錦水鹽田隨齋(元)	
一、錦帶橋	張燕(元)
一、送三宮錦水歸周防錦帶橋里	梁川星巖(元)
一、錦帶橋(二首)	見山一如(元)
一、錦帶橋流失所見	見山一如(元)
一、錦帶橋歌	<small>步橋上憶故 吉川有怡公</small> 東澤瀉(元)
一、錦帶橋歌並引	岡鹿門(元)
一、錦城長恨歌	永田岳淵(四)
一、錦帶橋	靜石(齒)
一、同	山縣含芳(七)
一、同	鹽谷艸溪(七)
一、同	上田西山(七)
一、同	竹雨(七)
一、錦川納涼	門田杏塢(七)
一、錦帶橋	稻田九臯(七)
一、錦橋秋夕	熊谷翠軒(三)

一、錦橋春景	熊谷翠軒(三)
一、陪沖原東兩將軍錦川舟遊	熊谷翠軒(三)
一、昭和癸酉七月與諸子游錦帶橋	有作
一、與某步吉香公園	橋本關雪(古)
一、錦帶橋秋月	天山居(古)
一、登城山	倉重雪畝(古)
一、錦川舟遊	上林岡陽(古)
一、錦帶橋	上林岡陽(古)
一、錦帶橋秋色	中村不摘(圭)
一、錦帶橋流失(三首)	中村不摘(圭)
一、同	田中翠南(圭)
一、同	栗栖坦堂(圭)
一、同	足立北鷗(圭)
一、同	東澤瀉(圭)
一、同	大島陽亭(圭)
一、同	横山健堂(圭)

一、同 (二首) ······ 高木樂水 (空)

一、和高木樂水翁 ······ 永田岳淵 (空)

一、錦帶橋 (十三首) ······ 永田岳淵 (空)

一、錦帶橋暮歸 ······ 永田岳淵 (充)

一、錦帶橋頭歲暮贈友 ······ 永田岳淵 (充)

一、錦帶橋新春 (二首) ······ 永田岳淵 (充)

一、錦帶橋 ······ 大華山人 (合)

一、題錦帶橋自畫 ······ 雲水樵人 (合)

一、詠錦帶橋流失擬古一首 ······ 田邊芳田 (八)

一、和芳田翁弔橋變 ······ 永田岳淵 (八)

一、錦帶橋四季詠 (五十三首) ······ 永田岳淵 (八)

春日錦帶橋 (十七首)

初夏錦帶橋 (九首)

梅雨橋上 (四首)

夏日錦帶橋 (五首)

秋興錦帶橋 (八首)

冬景錦帶橋 (十首)

一、御城山秀景 (十一首) ······ 永田岳淵 (八)

一、同調諧咏和次 九十七首 ······ 永田岳淵 (八)

(これは前記古今詩家の五言七言絶句、同律、長歌等に對し逐一和唱したるもの)

和 賴春水觀錦帶橋

和 中島櫻隱軒

和 菅茶山海上被レ阻風水

和 劉夢澤

和 鹽谷老田 (二首)

和 飯田周水

和 新納時升

和 森脇周德

和 渡邊南山

和 山縣淳泉詠錦帶橋圖

和 青木錦村

和 吳雲題錦帶橋圖

和 村田清風岩國再訪

和二都野慎齋

和二太田蜀山人

和二山田玄欽

和二山田新川_二(二首)

和二山田新川賦_二錦川人形石

和二王治本詠_二人形石

和二清國詩客張秋琴賦_二錦帶橋洪水

和二綿引東海空過_二錦帶橋

和二熊谷玄旦錦帶橋賞詠

和二一元和尚殘夜發_二今津_二溯_二錦帶橋邊上

和二井上圓了錦帶橋絕讚

和二前田慧雲

和二島地默雷_二(二首)

和二智恩院大僧正松翁

和二玉乃九華

和二有島橙村

和二南方一枝_二(二首)

和二玉乃九華_二(二首)

和二劉云高

和二鹽田隨齋題_二錦帶橋圖

和二岡鹿門錦帶橋歌並引

和二靜石

和二山縣舍芳

和二鹽谷艸溪

和二上田西山

和二竹雨

和二橫山健堂

和二大島陽亭

和二足立北鷗

和二清國人王治本賦_二錦帶橋長古

和二山田青門送_二齋藤致鄉歸_二伊勢

和二山田青門錦帶橋月夜

和二山田青門書_二夏日小景圖

和二山田青門詠_二天保癸丑錦帶橋修繕中之

災事_一（前揭）戒_ニ現時再建用_レ意

和_ニ江木鰐水錦帶橋歌_一

和_ニ玉乃九華錦帶橋引贈_ニ中島櫻軒_一

和_ニ南部五竹錦帶橋歌_一悼_ニ其刑死_一

和_ト東澤瀉步_ニ錦帶橋上_ニ憶_テ吉川有恪公_上

和_ニ見山一如_一（三首）

和_ニ大華山人_一

和_ニ雲水樵人題_ニ錦帶橋自畫_一

和_ニ玉乃五龍_一

和_ニ佐武奚疑_一

和_ニ鹽谷老田詠_ニ人形石_一

和_ニ東澤瀉_一

和_ニ高木樂水_一

和_ニ巨巖齋主人吉村弘毅宿_ニ錦帶橋東_一

和_ニ圓覺清蔭_一

和_ト鹽田隨齋爲_ニ二宮錦水_ニ題_テ錦帶橋雪月圖_上

和_ニ韓國張燕詠_ニ錦帶橋_一

和_ニ門田杏塢_一

和_ニ熊谷翠軒_一（四首）

和_四梁川星巖送_ニ二宮錦水歸_ニ周防_一

和_ニ稻田九臯_一

和_ニ橋太闊雪游_ニ錦帶橋_一（二首）

和_ニ天山居步_ニ吉香公園_一

和_ニ大草小雲題_ニ自畫錦帶橋_一

和_ニ倉重雪畝錦帶橋秋月_一

和_ニ上林岡陽詠_ニ錦帶橋及其環境_一（三首）

和_ニ中村不摘錦帶橋四首_一

和_ニ栗栖坦堂_一

和_ニ田中翠南錦帶橋流失_一

一、祝_ニ錦帶橋再建落成_一………田邊芳田_一（三三）

一、詠五龍橋_一………弘津拙三_一（三三）

一、和_ニ弘津拙三詠五龍橋_一………永田岳淵_一（三三）

一、錦川春望_一………山田行藏_一（三三）

一、和_ニ山田行藏錦川春望_一………永田岳淵_一（三三）

- 一、錦帶橋……………熊谷翠軒（三三）
一、和^ニ熊谷翠軒詠^ニ錦帶橋……………永田岳淵（三四）
一、觀^ニ錦帶橋渡初之式^{有レ感}……………熊谷翠軒（三四）
一、和^ニ熊谷翠軒觀^ニ錦帶橋渡初之式^{有レ感}……………永田岳淵（三五）

○和歌の部

- 一、錦帶橋……………香川景樹（三）
一、同……………藤井高尙（三）
一、同……………岡芳胤（三）
一、錦帶橋をよめる長歌……………葉山磯魚（三）
一、錦帶橋……………熊谷好古（八）
一、同……………風早宰相 實秋（八）
一、錦帶橋下にて……………伏見宮文秀女王（三）
一、岩國錦帶橋……………福原俊丸（三）
一、錦帶橋を詠める……………長谷川壽山（三）
一、同……………大塚磯名（三）
一、同……………藤田 葆（三）
一、同……………上林諸史（三）

- 一、和^ニ田邊芳田祝^ニ錦帶橋再建落成^ニ永田岳淵（三五）
一、和^ニ熊谷翠軒觀^ニ錦帶橋渡初之式^{有レ感}……………永田岳淵（三五）

- 一、和^ニ田邊芳田祝^ニ錦帶橋再建落成^ニ永田岳淵（三五）
一、和^ニ熊谷翠軒觀^ニ錦帶橋渡初之式^{有レ感}……………永田岳淵（三五）

○俳句の部

一、同(二首)………	井下 潔(充)
一、同(二首)………	米村田鶴子(充)
一、同(二首)………	藤本ゆきえ(充)
一、同(二首)………	中野指月(充)
一、同(二首)………	中柴紫水(充)
一、橋のほととぎす………	由阿坊(入)
一、納涼の橋………	百茶坊(入)
一、柳櫻の橋………	盧兄坊(入)
一、橋の朝霞………	菊舍(入)
一、五月晴………	以哉坊(入)
一、橋すゞし………	霞外坊(入)
一、橋の燕………	兄花(入)
一、蚊帳の橋………	桃雨(入)
一、電燈………	○獅子舞。初霜。月の橋(三句)
一、雁………	○月涼し。河鹿(三句)
一、指月堂(入)	○初日出
一、和憲(入)	○螢

一、四季の錦帯橋(九十一句)………	肌香同人會(三)
○月。涼味。月の人(三句)	梧葉
○花の昏。花の橋。花火(三句)	空々子
○秋の水。霧の橋(二句)	翠南
○神輿。瀬の音。雪晴れ。河鹿。寒鴉。月 (六句)	
花笑	
薰風	
叫石	
和憲	
二郎	

- 花の座。花の雲。(二句)
 ○花曇り
 ○花の反り橋
 ○花。花の雨。朧夜。櫻餅。(四句)
 ○鳥。櫻の空。花の町。(三句)
 ○待つ花。夏雲。花。(三句)
 ○花の武家屋敷。行く春。(二句)
 ○橋の手すり
 ○花の窓。花の橋。(二句)
 ○虹。花の瀑。(二句)
 ○散る花
 ○花さかり
 ○花吹雪。朧夜。(二句)
 ○夜雨の花
 ○花のこぼれ
 ○旅人
 ○春暮るゝ
- 虹雨
 直也
 甲兒
 南江
 梵想
 南山
 五倍子
 素人
 比呂詩
 鬼烽火
 白葉
 石猿
 炎王
 みち子
 比棹
 あきら
 美都女

- 雪の錦帶橋。窓の花。欄干。暮れの窓。河
 鹿。花見舟。散る花。花の冷。(八句) 圭月
 ○初霞。初詣。花の雲。花に架る。朝の花。
 春雪。通學。川霧。餘春。橋の袂。河鹿。
 磧。流燈。雪。戻り路。鮎の瀨。星涼し。
 千鳥。花火。霧。(三十句) 金窗
 ○青嵐。櫻人。朧。花曇。春風。夕霞
 (六句) 圭史
 ○春燈。春風。朧。惜春。(四句) 月村
 ○日陰。惜春。(二句) 王樹
 ○初霞 月斗
 一、錦帶橋を弔ふ
 ○蟲しぐれ
 ○秋の風
 ○秋の風
 ○賜と我と
 ○秋の雨
 白葉
 叫石
 二郎
 知風
 花笑
 九

○民謡の部

- 一、錦帶橋及び其環境小唄九詞（カラシコロソ節）
一、錦帶橋獨々逸（三詞）………河上大拙：（合）
一、同………野口雨情：（三）
一、同………幾田秀三：（合）
- 曼珠沙華
○秋燕。秋さみし（二句）
○秋の雨。秋。秋の風。瀬の霧（四句）
○秋の風。秋の川（二句）
○出水
- 圭月
空々子
金窗
蒲公英
圭史
月堂：（空）
指
碧
白童：（空）
錦如楓：（空）
吉田其天：（空）
大島二峰：（空）
黄石：（空）
其天：（空）
茨水：（空）
- 一、錦帶橋………河東碧梧桐：（元）
一、同………岩谷小波：（元）
一、錦川抄（十句）………村井一露：（三）
一、錦帶橋再建渡初めを祝して（二句）：庄司岐峰：（元）
一、同………鹽井亮吉：（元）
一、同（二句）………河野花笑：（元）
一、同（二句）………鹽田潮風：（元）
一、同（二句）………福坂禽江：（元）
一、同（三句）………村中圭月：（元）
一、同（四句）………玉田空々子：（三）
一、同（三句）………高橋金窗：（三）

一、祝錦帶橋再建渡初式……………村本米槌（二六）

一、名橋を讃える歌……………岩國小學校生徒合唱（二六）

一、錦帶橋魂……………津田彌吉（二七）

一、錦帶橋の再建を祝して……………熊谷隆子（二八）

○謡曲の部

一、浮橋（錦帶橋）謡本……………春田正鞆（二三）

錦帶橋諷詠の文章、漢詩、和歌、俳句、民謡、謡曲

○錦帶橋記

玉乃九華
岩國

此錦帶橋記は岩國藩主吉川經幹創立の藩學校養老館の學監玉乃九華（惇成、通稱小太郎）の作る所にして弘化二年に屬す、後明治九年四月、舊藩臣中村佑、藤田葆、大西利左衛門相謀り石に刻し碑を錦帶橋東詰に建つ、後横山乘越しの錦帶橋北側に移し現存す。

橋名ニ錦帶。以ニ其爲レ帶ニ于錦水ニ已。錦水急流。在ニ巖邑治所郭門之前。五六月之際。如驟雨連日未レ已、怒浪暴漲。疾如ニ奔馬。則不可レ以レ舟。不可レ以レ梁。絕ニ往還者數矣。延寶中。吾先君有ニ巧思。口命ニ工人。建ニ飛橋。爾來百數十年。士庶不レ知ニ其有レ病ニ於濟ニ云。隄防夾レ水。其相距百十有餘步。中流積石作レ基者四。高四仞有レ奇。基左右角尖。使レ莫レ逆ニ於水勢。而架ニ五橋于其上。而中三橋無レ柱。從ニ兩基累レ材架起。錯綜相接。用レ鐵箍レ之。凡幾百接。愈接愈近。合爲ニ一條。如レ是者五條。又有ニ橫材。以維持之。版ニ于上。欄ニ于傍。廣丈有半。長二十有一尋。其形彎彎如レ跨レ空。宛乎白虹啣レ尾而起。實奇構也。是其大略。至ニ如ニ其詳。工人深秘而弗ニ外泄ニ也。橋之西東皆山。而水繚回乎其間。霞翠沙明。殊

有ニ景致。雖ニ他邦人、必稱ニ其勝。以爲レ畫莫レ及焉。抑亦有ニ錦帶之奇ニ云爾。假使ニ飛橋無レ有。則山水雖
美。豈得下獨播ニ其名。勝中於天下上乎哉。

弘化二年乙巳春三月

巖國 玉乃惇成撰

○錦 帶 橋

山田 青門 岩國

左の一文は岩國藩士山田青門著す所の「錦川志」に記す一篇である。

在ニ衡山郭外。一曰ニ算盤橋。以ニ其背肖レ名焉。又曰ニ五龍橋。以ニ其無レ柱空懸ニ稱焉。延寶中工人奉ニ先
公ニ巧レ思所レ創。奇亦極矣。然其奇不レ在レ橋而在レ基也。橋上下布レ石三十步。就ニ其中ニ疊レ石爲レ基者四。
形若レ菱實。基内實以ニ小碎石。若乃洪水及ニ橋根。則基内亦水從ニ地中溢。以レ故無ニ浮動之患。橋歷廿
年。不レ得レ不レ新焉。石基二百年。巍然屹立。雖ニ近年大震。不レ驚不レ崩。可レ不レ謂レ奇哉。其始造レ之。
聞江州穴生人善築レ石。遣レ人學ニ其法。遂得レ成焉。至今賤士之職曰ニ穴生ニ者存。凡土木之役必命レ焉。
橋材用ニ檣松柏鬚葉松屬。銅鐵加ニ三分一。用ニ其舊ニ矣。三四十年來。物價飛躍。修造之費莫大焉。及ニ桂
直養俗稱作右衛門佐伯逸藏督ニ工部ニ也。用レ意緻密。務省ニ無益。稍得レ減焉。先是造橋分ニ工人ニ爲レ黨。從ニ兩
基ニ累レ材架起。交競ニ其速。鐵箇鐵釘。率略居レ多。以レ故橋不ニ堅牢。桂改レ之。不ニ復分ニ黨。架ニ水上橋。

土苞塞レ流數百。役夫有ニ有名無レ實者。鍛治之於ニ銅鐵一亦然。佐伯檢レ之。皆始無ニ其弊。奈ニ近歲苟有ニ大雨。御莊渡斷ニ舟楫一。自ニ王人幕吏一。至ニ鎮西侯伯及士庶方外之徒一。皆假ニ道於吾橋一。數百人馬。憧々往來。架力有レ餘。板面乍凹。加レ之四方來觀レ橋者。十倍昔時一。故修造之期。有レ縮無レ延。有司者附ニ之一歎ニ耳。抑錦川之月以レ橋奇。錦川之雪以レ橋妙。錦川之柳。錦川之花靡レ不以レ橋奇妙。何必屈ニ指於橋壽一。攢ニ眉於斧斤一哉。況其本出ニ於先公思民之慈。令ニ其無ニ朝涉暮揭之苦者乎。

十一二月際。錦水枯落。在其時修ニ橋例也。辛丑歲。以ニ早春一造。未ニ全成ニ而暴雨一夜。漲水甚高。諸材木多ニ流失者。梓人之老者。竊爲ニ工部一耻レ之云。記予雨時入ニ衡山。木屑蔽レ川而下。頗爲ニ偉觀一。卽事

斤斧聲收錦帶橋。忽遭ニ暴雨徹ニ春宵。蔽レ川木屑真堪レ想。當日吳兒魂爲ニ消。此詩天保十二年
辛丑正月ニ載ス

至ニ橋之景。海內文士。題咏不レ少。如レ予不才。生ニ其下。却無ニ一首稱ニ揚其勝。李青蓮所レ謂搔レ首者。近爲ニ某氏囑ニ。書ニ夏日小景圖一曰

錦水山皆秀。五橋多驟雨。孤舟垂釣老。白日貯ニ青蓑。

送ニ齊藤致卿伊勢齊藤
拙堂子歸ニ伊勢

重レ繭不レ辭山道遙。寒鄉文物耻ニ寥寥。歸來唯向ニ家翁一說。得レ觀防州錦帶橋。

月夜偶作

十里清川白繞城。夜深無復櫓橈聲。飄然自覺換凡骨。錦帶橋頭攀月行。

雖非詠橋者。差可以嗣響矣。

○觀錦帶橋

賴春水廣島

五條連作一長條。錦帶高懸到紫霄。不見相如題去柱。惟知織女度來橋。雌雄截雨虹霓接。斷續受風鳥鵲飄。儘怪人行搖未墜。青山相對水迢迢。

○錦帶橋

中島櫻隱軒京都

一川秋色滿千家。岸濶灘長多亂沙。山擁飛橋勢將卷。行人腳底悉青霞。五梁一百二十間。高映晴空各作彎。最好殘更帶霜看。白虹連貫月中山。

○錦帶橋

正墻適所

五橋屈起架澄波。橋上連山帶晚霞。街路一條沿水曲。城牆數里隔流斜。雙欄雨色香魚躍。兩岸鶴聲嫩綠加。方看夕陽相映發。幾重龍影落晴沙。

○岩

國

阪 谷 朗 盧 備前

一川界_ニ城市。五虹通_ニ往來。山水雙明秀。烟光信美哉。彬彬出_ニ多士。應接皆異材。胸襟無_ニ城府。議論豈嫌猜。縱觀講堂上。藝場細徊徘。聖像傳_ニ大內。精巧而肅齊。更拜韓公像。言獲_ニ朝鮮_ニ回。因欽征討時。已兆文運開。天問獨立子。贊語傳_ニ鴻裁。歲德相扶持。藏此水雲堆。生也西遊始。觀光喜_ニ麗佳。進入_ニ防長際。將仰祖勳魁。舉_レ杯問_ニ舊事。暢然倚_ニ翠涯。

○錦

帶 橋

菅 茶 山 備後

雨散篷窓島嶼遙。柁樓有_レ響午生_レ潮。若_下教_ニ風水_一如_中儂意_上。直到防州錦帶橋。

○同

劉 夢 澤 清國人

(清國人なる劉氏岩國に來り、畫家河野絲白齋と相逢うて詩畫を談じ、一詩を賦し書して絲白齋に與へたるもの。是れ。)

錦帶橋前錦水流。長堤楊柳拂_ニ高樓。醉倚_ニ闌干_ニ春烟裏。疑是唐山吳越州。

○錦 帶 橋 歌

江 木 鰐 水 備後

(江木鰐水は戻又は晋文と稱し頼山陽の愛弟子にして山陽の臨終に侍し其行狀記を書いた人である。嘉永五年閏二月岩國に來り、養老館にて有格公(吉川經幹)に謁し大學及文章軌範を講じたことがある。此詩は其時の作である。)

過レ橋重過レ橋。人影出又沒。五梁三梁高。穹窿無ニ柱蹠。直疑雲際虹。數段誰分割。又似ニ五蛟龍。銜レ尾絶ニ蕩潏、踏レ之動搖搖。奇巧如ニ生活。我足半天下。來レ此驚吐レ舌。優侍辱ニ懇留。假館眺矚豁。青衿好レ學士。爭進問ニ文訣。笑指闌干外。文法此羅列。聞道架ニ此橋。本備ニ江水溢。何曾求ニ奇觀。足レ要ニ通ニ馬西。磐石固ニ其根。辛苦切ニ山骨。而後橋圮成。堅固如ニ沃鐵。文章濟世用。何徒節ニ奇絕。道義是根柢。學識難レ缺レ一。根柢既深固。議論架レ空出。我觀ニ橋上美。山河入ニ畫筆。必有ニ俊秀士。與レ橋爭ニ奇傑。此橋君師表。過レ之勿ニ勿卒。不レ求レ奇而奇。此卽真奇絕。

○錦帶橋引贈 中島櫻軒

玉 乃 九 華 岩國

錦帶之橋天下奇。高架ニ碧霄ニ無レ所レ支。神耶人也創者誰。堪レ驚神造出ニ人爲。勢比ニ五龍ニ拔レ雲飛。將レ謂廣寒攀ニ月梯。我家其側幼穉知。在レ目不レ疑耳必疑。錦江急流舟易レ危。銅柱鐵礎奈レ難レ施。一雨三日水漫瀾。東里西郭絕ニ往來。作レ橋本非レ誇ニ般倕。祇因ニ先君子民慈。如今二百星旦移。功德衆庶傳ニ口

碑。况復江山世所希。四時風月皆相宜。最是春花爛漫時。回波層浪濯錦機。冠童風詠此挈提。暮春春服倣浴沂。但恨巖邑隣邊陲。未聞仙才爲之題。偶逢君車海西歸。欲從錦帶賞中秋暉。君今都下文章魁。應有毫端吐彩霓。

(此長詩は九華より櫻軒に贈るもの、櫻軒囊に七言絶句二首あり、今其の京都に還れるに際し送別に賦したものならん)

○錦帶橋

玉乃五龍岩國

萬馬奔騰走波浪。五龍踴躍度雲霄。要知東海神機妙。請看防州錦帶橋。

○同

鹽谷老田岩國

未雲何龍連瑤霄。天矯影入錦水漂。奇巧一削造化窟。美名高似橋身高。半空履聲響闔闢。殘夜燈火接斗柄。過之誰無登仙想。下瞰塵寰眼界遙。一笑當年劉賓客、徒誇成都萬里橋。

○同

鹽谷老田岩國

論定扶桑第一橋。山青沙白水瀟瀟。風雲變態君知否。隱躍蛟龍連碧霄。

○同

佐武奚疑 岩國

現出玲瓏五色虹。回首身在彩雲中。昔時誰借人間手。應示天然造化工。

○錦帶橋驟雨

飯田周水 岩國

山嶽雲驚樹色搖。磧沙風卷水浪跳。一聲雷電殘陽薄。驟雨乍過第五橋。

○錦帶橋

森脇周德 岩國

錦帶橋邊夕。清風六月寒。逐涼多少客。倚盡玉欄干。

○同

渡邊南山 岩國

橋勢聯如躍。神工世所稀。彩雲朝吐口。化作五橋飛。

○贈紫洋黃先生錦帶橋圖 並引

山縣溥泉 岩國

(黃紫洋は肥前佐賀藩儒者横尾文助のこと、紫洋藩許を得て遊旅したが歸藩の期日に遅れて藩境より入るを得ず屠腹して死せりと

傳り、此詩によると紫洋岩國に來り山縣博泉と會し錦帶橋圖を求めしものか。)

吾邑錦帶橋亦世稱一美觀也。先主玄真公聰明特達。惠_ニ愛衆庶。闔鄉以乂。嘗與_ニ匠師兒玉某謀。乃造_ニ五橋於錦水上。濟川之功。尤足_レ爲偉。往歲洪水衍溢。殆漂_ニ諸邑。提封把決。率無_ニ全處。而橋則毫無_ニ毀損。魯般之巧。於是乎見矣。此圖凡工之所_ニ寫實。失_ニ其真。固不_レ足_レ供。少文之游。亦唯僅見_ニ其形耳。聊貢_ニ紫洋先生几下_ニ以應_ニ其需。添以_ニ一律。伏請_ニ斤正。

錦帶橋成號_ニ五龍。蜿蜒深映_ニ碧波濃。倚_レ欄下瞰盤溪樹。舉_レ首平臨岩國山。緣_レ是諸州傳_ニ勝槩。無_レ端幾客擅_ニ從容。未_レ聞豪傑曾題_レ柱。乞_ニ與詞人_ニ試_ニ筆鋒。

○錦 帶 橋

青木 錦村 岩國

風織_ニ春波_ニ疊_ニ縠紋。五橋高架錦江津。遙遙誰向_ニ城中_ニ去。認作步_レ虛天上人。

○同

新納 時升 薩摩

百丈長橋巖國東。五基屹立架_ニ遙空。神機豈貸_ニ秦皇力。鬼造還推_ニ魯般工。錦曝_ニ九淵_ニ流作_レ帶。雲橫_ニ兩岸_ニ勢成_レ虹。行人自訝銀河上。攀_ニ得仙梯_ニ到_ニ月宮。

○題錦帶橋圖

吳雲

錦帶名橋冠_ニ大東_一。聯翩片影駕_ニ長風_一。更看兩岸煙霞色。都怪上天入_ニ月宮_一。

○錦帶橋長古

王治本清國人

(王治本は泰園と號し中國杭州の人である。明治十八年十二月岩國に來遊し文人墨客と會し詩酒に交わる。當時作るところ左に。)

錦城山下錦城水。一帶碧波繞_ニ巖趾_一。流長岸濶幾曲盤。瀉落源頭數十里。當年藩主吉川侯。築_レ橋濟_レ人自此始。遙遙兩岸百丈餘。鑿分五洞相遞迤。砌_レ石作_レ柱木作_レ梁。儼如_ニ蟠棲凌_レ空起。中洞峭然橋最高。左右起伏分_ニ首尾_一。橋影倒落碧波明。呼作_ニ錦帶_一善比擬。畫柱峻嶮崖腹前。彩欄廻繞山腰裏。橋下沙石錦成_レ紋。橋畔樹雲欺_ニ錦綺_一。來往行人如_レ織_レ梭。橋北橋南通_ニ村市_一。村人飲得此川流。定_{メテシ}多錦繡風流士。此橋雄勝冠_ニ海東_一。吾聞_ニ其名_一亦久矣。今者游跡到_ニ防州_一。一登_ニ長橋_一逞_ニ雄視_一。四圍山色鎖_{シテシ}蒼蒼_一。一派波光蕩_{トシテ}瀰瀰_一。五龍之名舊有云。半月之形渾相似。挿_レ天虹帶垂_レ影長。如_レ斯巨橋歎觀止。春風吹_レ帽興豪狂。五層危欄遍憑倚。不_レ羨臥_レ橋玉局翁。聊學題_レ橋文園子。悠悠流水萬里蹤。杳然一去動_ニ人唏_一。二百餘年星物移。古城荒矣橋長峙。

○錦帶橋懷古

村田清風萩

(清風二十二歳の時始めて江戸に往つた時富士山を仰ぎ見て「來て見れば聞くより低し富士の山、釋迦も孔子もかくやあるらん」と歌つたことは有名な話。横井小楠が長州を訪歴して清風に面晤し、人に語りて曰く、長州人には利巧な人は多いが獨り清風は膽識共に備はり出群の人物だと賞揚した。此人富士山を見る前に錦帶橋を見て何か橋脚に題して志を述べたことがある。六十歳を過ぎて又此橋を渡つた。老後昔を懐い出して一詩を賦し人に與えたものが是れ。)

立ニ馬横山、樹樹新。東來西去若レ梭身。記不橋下賣茶翁。^{スルヤ}四十年前題レ柱人。

○錦川橋頭夜

都野慎齋岩國

高樓宴罷夜如何。涼氣滿天月色饒。一帶柳烟渺茫裏。有レ人投網碎ニ金波。

○錦帶橋

香川景樹岩國

(景樹の日本歌學史上に著名なる人物たるは世の知る所である。彼は鳥取の生れなるも青年京都に出で、岩國出身の香川景柄の門に入りて歌を學び三十二歳の時迎えられて其養子となり香川姓を名乗るに至つた。後故ありて離婚となりたるも其聲名は既に洛中洛外に高く、歌學界の新派として一機軸を出し多くの門弟を養う。其の岩國に縁あるは斯の如き由來にして錦帶橋亦た其謳咏に入れる所以である。)

唐錦誰か三重の帶ひきはへて干すとは波の上にかくらむ

○同

藤井高尙
津宮宮司備

千早振かみ世の橋やかゝりけんはし柱なき岩國の橋

○同

岡芳胤肥前

来て見ればうらなつかしき川の名の錦よそほう帶はこの橋

○錦帶橋をよめる長歌

葉山磯魚筑前

(磯魚は江戸狂歌師眞顔の弟子にて狂歌を詠む。筑前福岡の人黒田家に仕え御徒士通りなりしと。岩國に來遊してよめるものならん。)

天小女なつとも つきぬ岩國の くにの御楯と 益良雄か 千引の巖 なみ立る
 岸根ゆすりて 行水は 吳の手人の 織機の 錦の河そ 其河に わたせる
 橋は はしきやし 飛彈の木たくみ 石たくみ かけていく世か うこきなき
 岩てふ國の 名と共に 枯す 崩れす とことはに 愛こそわれ 真木の板はし

○錦帶橋發句

もつと鳴け橋は五つそ杜鵑
越くて涼しさいつく橋の數
名の橋や柳櫻も數をそへ
一つ宛うみ出す橋の朝霞
橋に似ても虹は一ぞ五月晴
橋すゞし數へる片手杖片手

(此句中美濃の人多きは其頃の觀光團の風流人であろう。)

越前由阿坊
美濃百茶坊
長府菊兄弟坊
美濃以哉坊舍
同霞外坊江戸

○題錦帶橋

蜀山人江戸

(蜀山人は太田南畠にて江戸時代に著名の隨筆家である。岩國に來杖した事蹟は今猶存す。)

少小曾聞錦帶名。今年始見五橋横。由來巖國稱巖邑。自有騰蛇無足行。

○錦帶橋

山田玄欽萩

危橋架處聳雄虹。百丈蜿蜒藐鬼工。山轉翠屏水廻遙。千秋形勝雨晴中。

○題ニ三戸常安翁所レ畫錦帶橋圖

山田新川

明治癸巳十月佐伯雨城兄持ニ三戸常安翁所レ畫錦帶橋圖ニ來索レ詩因賦ニ七律一首ニ題ニ其上。

錦溪一道水滔滔。跨レ岩長橋百尺高。築レ壘排レ梁尤壯麗。鎔レ鉛立レ礎太堅牢。設レ梯魯匠未レ爲レ巧。鞭レ石秦皇獨自豪。憶昔西游探勝日。振ニ衣虹背ニ且翔翹。

○題ニ錦帶橋ニ佐伯氏囑

同

橋五架相接疊レ石爲レ礎。中三架無レ柱。長百二十五間。廣三間餘。延寶元年藩主吉川廣嘉所レ造也。由來巖邑神仙境。環郭溪山佳麗饒。誰把ニ屠蘇ニ錦一帶。展成七十丈長橋。碧流觸レ岸有ニ紆曲。玉鱗落レ波頻動搖。好是夜深人絕後。憑レ欄月下獨吹レ簫。

(山田新川は能登の人にして吾郷人江木冷灰、後藤錦川等詩徒と友たり。佐伯雨城記す所によれば明治癸巳(二十六年)より三十年前岩國に來遊し錦帶橋を觀たる人の如し。)

○巖國佐伯雨城以ニ錦川人形石ニ見レ贈因賦謝レ之

山田新川

錦川水中有ニ小蟲ニ聚ニ沙石ニ結窠。長僅五分許。皆爲ニ人之形ニ。間有下似ニ七福神ニ者上。土人貴レ之。

俗呼曰人形石。

錦溪淺處有小蟲。聚石作窠容厥躬。一朝蟲去猶餘殼。狀與七福神相同。細視宛然眉目具。小蟲亦奪造化工。蛭子把竿戴烏帽。大黑含笑兩頰豐。辨才天女何窈窕。玉佩珊瑚欲搖風。我今求福獲斯物。珍藏共置一龕中。從此五鬼長絕跡。不倣韓子賦送窮。

韓昌黎作送窮文。窮鬼之名有五。曰智窮、學窮、文窮、命窮、交窮。

○人形石

鹽谷老田岩國

水蟲何工意。沙礫疊象人。眉目宛然具。實如鑄磨然。兩岸鶯花春無限。滿川風月秋將晚。錦帶橋上多遊人。水中倒影是粉本。

○人形石

王治本清國人

咏人形石。石眇小。約半寸。其色蒼黑。頭面手足宛如人形。中空有蟲居焉。

形容面目宛然同。石骨玲瓏半寸躬。乳哺五龍橋下水。應知生育在龍宮。

眇兮沙礫幻成躬。胎孕居然奪化工。莫道空空無一物。腹中容得寄居蟲。

(人形石は以上詩人の歎美したるが如く水蟲の巣で紫、黃、白、黒の砂石を綴り合せて衣裳と爲し其中に棲居し極めて微小のもの)

であるが、亦是れ錦帶橋下水流中の奇なる產物として以前は觀光客の土產物となり、賣店にて販賣していたものだ。近年は蟲の絶えたものか又は小供らが採拾せぬものか賣店にも其姿を見せない。實に天然の奇工である。

○錦帶橋畫贊

仁和 陸秋實 清國人

横山積翠。錦水奔囂。舟楫難渡。來往飄颻。賢侯憫惻。奚建五橋。左右環帶。凌摩絳霄。民不病涉。謳遍芻蕘。百有餘歲。功德昭昭。對茲圖繪。便我心翹。四言一賦。稍助鈞韶。

○錦帶橋

平湖 張秋琴 清國人

文化五年歲次戊辰雨水後二日題於崎陽旅舍。

大清嘉慶十三年戊辰春王中浣

洪水滔滔渺無岸。兩山夾峙渾如灌。近視爭看白馬奔。遠觀不辨青霓斷。霖雨瀨冲勢若分。魚鼈顛倒騰千軍。駭浪乍浮出地日。驚濤翻射垂天雲。行人往來涉渡難。望洋興嘆思無端。巧奪造化用心苦。五橋並建巧不刊。疊石層層繞四周。擎天砥柱排中流。民謌盛德百餘歲。我亦翹首頌賢侯。

○錦帶橋記示清人某

香川琴山 岩國

(此記は香川晃の琴山が前記の清國人張秋琴らの文化四年(丁卯)に岩國に來遊せし時示せるものと想る。)

吾富國之爲_レ鎮也。橫山鬱_ニ乎其西。岩山峙_ニ乎其東。而錦川環_ニ其間。霖雨漲溢。則其流太險。不_レ可_レ以_レ舟。亦不_レ可_レ架_ニ柱橋。動絕_ニ往來者或至_ニ數日_一也。昔吾先侯有_レ憂_レ之。經_ニ始奇巧_一。命_ニ工人_一建_ニ五橋於郭門之前。兩岸疊_レ石以爲_レ基。又中流起_ニ石基四。高各四仍_ニ有_レ奇。左右尖角。其形如_レ菱。以令_レ順_ニ水勢_一。而架_ニ飛橋於其上。唯兩岸二橋用_レ柱。其長各二十五尋有_レ奇。望_レ之恰如_ニ一大聯環。名曰_ニ錦帶橋。於今百數十年。所_ニ民受_ニ其賜_一焉矣。若夫青巒碧水之勝。烟花雪月之景。妙工不_レ能_ニ寫眞_一也。今使_ニ畫工永喜_ニ圖_ニ其春景一幅。以供_ニ大清國嘉賓之一暎_一。爲記_ニ橋之所以造_ニ以副_レ之云。竊望大邦據_ニ此圖_ニ賜以_ニ一幅畫。加以_ニ郢調_一。豈啻瓊玖之報。橋亦將_レ生_ニ光彩_一。

文化丁卯仲夏示_ニ清人_一。

○錦帶橋記

東總 鳴岳 物元庸 萩

(寛政四年二月、萩人加藤馴負、進藤三左衛門兩人防長兩國の検分のため岩國に来る、鳴岳物元庸とは其れに隨行せし加藤馴負の家來にて弓削周助のことである、當日關戸に出張應接せし岩國藩御用人本城與左エ門へ周助の與へたる作文である)

防州岩國兩山間。有_レ川曰_ニ錦川。流西三十里許入_レ海。有_レ橋曰_ニ錦帶橋。其形如_レ虹者有_レ五。其間石壘有_レ四。前後二橋有_レ柱。中央三橋無_レ柱。高十一仞餘。幅二仞五尺五寸。一虹之長二十一仞餘。凡長百七仞餘。朝則烟蒸_ニ兩岸_一。如_ニ潛虹浮_ニ水上_一。日中則光澤搖_ニ清流_一。如_レ陳_ニ錦帶_一。夕則紫霞四起。蜺度_ニ山

潤。雨則油然山雲起。如ニ飛龍上レ天。其形勢不レ可ニ勝盡也。嗚乎巧哉。造ニ此橋ニ之君。可レ謂ニ智者也。雖ニ岐之懸橋甲之猿橋巧也。不レ若ニ此橋之奇巧ニ遠矣。非ニ智者ニ此橋不レ成。誠後世無レ嗣者乎。

○錦帶橋納涼

綿引東海水戸

點レ水越燈酒旆招。三三伍伍趁レ涼饅。書生淪落無ニ聊賴。短褐來過錦帶橋。

○錦帶橋

熊谷好古

古郷へ歸るたもとのそれのみか誰も錦の橋はきて見よ

○同

風早宰相寶秋

川橋のにしきの帶の名にめてゝはるの霞の袖やかくらん

○題錦帶橋

熊谷玄旦 岩國

(岩國の三熊谷として明治時代に三軒の醫家があり、醫學士熊谷茂樹は岩國に歸りて岩國病院の開祖となり、熊谷三省は岡山市に居住し、熊谷玄旦は福岡に居住し何れも醫の仁術に從事して世を終つた。此詩文の玄旦は明治の玄旦の祖先で、寛永十年(或は八年)秋にて生れ元祿五年七月七日岩國に歿しているから、錦帶橋の創設當時は其工事を目睹していたものである。岩國藩主第二代

の吉川廣正の御側近く仕え、松平伊豆守、久世大和守御家法の内赤龍舟、龍蛇丹御習はせ云々とあるに見るに、藥名であろうから其頃から蘿公一家の典醫であつたのである。而も文藻も豊かであつて其の遺什も少なくない。明國の歸化僧獨立禪師とも交りがあつた人である)

先主曾數造レ橋。雖ミ扶厲ニ掲艱險。爭奈下洪水頻溺。急流轉レ石。回浪漂レ柱。欄碎梁折。一時破落。徒費工巧エ矣。越奈當ニ常欲ニ繼レ志終レ功。忽出ニ奇巧。中流疊レ石。以架ニ五橋。橋無ニ一柱之支。而遙飛水懸レ空。恰如ニ長虹橫レ天。嗚呼怪哉。兩境通達往來絡繹。寔是極レ溺亨屯之偉功乎。嗚呼仁哉。與下彼百尺危樓以祈ニ神仙。萬里石橋以見ニ日出者。心術何其逕庭乎。因漫把レ筆略頌ニ功德云。

可レ怪五橋空裏懸。虹梁隱見入ニ雲煙。若拒ニ烏鵲填ニ河上。定是龍蛇冲漢邊。已有ニ闌干堪レ弄レ月。還無ニ柱脚欲レ通レ天。野人知否彼功力。來往相誇說ニ濟川。

○凹凸橋記

宇都宮遯庵 岩國

(遯庵は岩國の碩儒と言わんより日本の大儒である。寛永十年生、寶永四年七十五歳に歿したから錦帶橋の創建再建は眼前に眺めて居た。左の二文は延寶二年より三十三年後の寶永三年五月(死の一年前)に作つたもので、錦帶橋及び其周邊嬉戯の状況が描寫されて餘蘊なきものであるが、此頃未だ錦帶橋の名稱は一定せず、或は凹凸橋と呼び或は錦帶橋と呼んでいたと見える。其の文は「極樂寺亭子記」の中にある。極樂寺は今の旭町の下端、萬谷口の山下にあつた古刹で、本書著者の少年時代には現存していたが後廢寺となつて解かれ、今は其一隅に僅に半畝に足らぬ墓地が存するのみ。此極樂寺からは凹凸橋も橋下の河原も錦川の清流も庭

のよう眺められた

二〇

(前略) 其當面則有^ニ逝川清如^ニ渭水^一者、源泉遠出^ニ于西北、混々溶々而流至^ニ于海、就^ニ其淺^一矣、有^ニ徒涉之瀨^一、就^ニ其深^一矣、有^ニ不測之淵^一、魚鼈或潛或躍、鴟鴞相馴相翻、舟子之蕩漿也、有^ニ溯洄者、川之左右兩堤下、小文石磊磊如^レ散^レ玉、平白沙明々若^レ鋪^レ銀、其潔清也、可_下無^ニ筵席^一而坐_上、堤畔傍^ニ人家^一植^ニ松杉花竹^一、雜然如^ニ畫本^一、尤奇者凹凸橋也、長七百尺強、疊^ニ大石^一架^ニ木板^一以通^ニ激湍上、其兩端纔用^レ柱^一、橋形有^ニ高低^一、渡者雁齒而昇降、謂^ニ之凹凸^一者以^ニ模様之似^一也、又曰^ニ錦帶橋^一以^レ近^ニ錦見里^一也、此橋在^ニ閭閻各地之中間^一之故、興馬人民往來絡繹云々。

又別の文に

若夫開花之時、積雪之朝、其興不^レ眇、就^レ中人同^ニ慰悅^一者、風涼之夕晴月之夜也、當^ニ是時^一凹凸橋邊河東河西水際、浩々砂石上、貴賤老少乘^レ涼遊遨者不^レ知^ニ幾人^一、行厨行竈杯盤狼藉、中有^ニ歌謡發處^一、有^ニ絲竹響處^一、

○根笠行紀。殘夜發^ニ今津^一

一元和尙 岩國

(一元和尙は岩國洞泉寺住持にて元祿十一年錦川を遡り根笠觀音に謁でし、更に本郷に遊びて歸る。其行程の山景水色を詩囊に納めたるもの所謂根笠行紀七言律十八首である。左に掲ぐるは往路舟纜を今津川に解き早曉錦帶橋下を通過する光景思うに堪ゆるものがある。而も之に附する一元和尙の高弟轍外なる人の註脚は、錦帶橋上下の山水と錦帶橋を説くこと躍如到れり。元祿十一年則

ち此橋創設より二十五年目の面目が、二百五十二年後の今日まざ／＼と眼に浮ぶ。依りて轍外の註解を附して當時を偲ぶ

今津川口拽レ舟上。殘夜沈沈秋氣清。道祖崎藤懸レ岸暗。吸江淵月倒レ天澄。飛橋空裏龍蛇走。兒石瀨前雷霆鳴。漸過二廻一關戸北。多田曉寺稱名聲。

(轍外注) 今津者防州山川數十里之河口。左接ニ藝陽。前對ニ豫州。攝津西州海舶往來一都會也。道祖崎者此處有ニ道祖神森ニ故名矣。藤者防陽一佳景。三四月交古藤纏ニ老樹侵ニ青霄垂ニ水面。時躑躅紅白雜ニ紫藤。滿山麗光倒布ニ水底。一帶河流絢爛如レ錦。時鄉人登レ山浮レ舟遊賞。昔天智天皇幸ニ筑紫一時。賞ニ嘆景光。此里名ニ錦見郷。見ニ隱德記。吸江淵者有ニ川西萬屋間。水石清冷。天光瑩徹。飛橋者錦見通ニ横山橋也。名ニ凌雲橋。(本書著者云、元祿の頃は未だ錦帶橋の名稱なかりしと見ゆ) 大都飛橋所レ在甲斐猿橋。越中堺川橋等或謂ニ懸橋。或謂ニ續橋。或謂ニ波禱橋。其作也兩岸送レ木中頭續、甲越二橋皆然也。今此凌雲橋兩岸相隔數町。河中築ニ三石峯。峰中出レ柱。次第相登。中間相續。橋聳ニ三峰。上凌ニ雲煙。前後二橋加ニ高柱。兒玉氏與八郎(本書著者云、九郎右衛門の事なり)受ニ先君之命ニ創レ之。諸方見聞者謂ニ魯般之巧恐不過レ此云。夜中舟上望レ之。雲端數百尋。飛ニ越東西。不レ比ニ龍蛇。人謂ニ之何ニ乎。兒石者俗謂ニ鳴兒石。河中巨石水激怒雷。二廻者池迫。大内廻也。關戸往還宿也。多田翠微間、有ニ淨土寺。號ニ稱名院。曉天舟到ニ於此。詩中水光野色。秋涼爽氣中。可レ想ニ見其風致也。

伏見宮文秀女王

人つてにきゝわたり來しこの橋をうらまで見たるけふの嬉しさ

○岩國錦帶橋

福原俊丸 東京

天つ虹そのあや橋を人の世にかけのこししは神技なれや

○錦帶橋を詠める

長谷川壽山 岩國

涼しさはいつれ勝ると川橋のいつゝながらに越てける哉

○同

大塚磯名 岩國

あやしくも錦の川にかけてけり柱もなみの上のそり橋

○同

藤田 葵 岩國

天乙女そもこの川の錦もてをりしも橋を巧みいてけん

○同

空蟬の世にかかるとも思はぬは錦の帶の橋の見わたし

○錦帶橋の改築を祝いて

河姫はにしきの帶をしめかへて更に新たに人目ひくらむ

○錦帶橋

燕や錦帶橋を筋違に
蚊帳の外錦帶橋の斜なる
錦帶に舟をつなぐや雁の晴
電燈や錦帶橋の夜の雪

上林諸史 岩國

井上波南葉山

兄桃花雨名堂

井上圓了東京

○錦帶橋

誰教ニ嚴島藝陽驕。伯仲相争錦帶橋。比々霓喚龍猶未盡。吾疑蜃氣架雲霄。

○同

火國津梁畢レ事還。路過ニ巖邑ニ暑初刪。晚來一雨青如レ沐。錦帶橋頭立看レ山。

○同

島地默雷 東京

騷渦萬客賞ニ奇工。錦帶橋高架ニ錦江。勝景不レ知何以比。五龍追レ尾入ニ雲中。
水色山光呈ニ美態。楓紅松翠宜ニ鍾愛。別看錦帶架ニ名橋。人步ニ五橋ニ眠ニ臥背。

○同

松翁 大知恩院

錦水繞レ山山若レ臺。長虹凸凹畫圖開。行人遙向ニ雲間ニ去。飛鳥却從ニ橋下ニ來。

○同

圓覺清蔭 鎌倉圓覺寺住職

錦帶橋邊放ニ小船。彩虹連影水中天。漁郎古岸垂ニ芳餌。八月仙槎破ニ翠烟。文政乙酉秋

○同

吉村弘駿 廣島

巖國城邊百尺樓。檻前斜見錦川流。五連橋上尤勝景。長水重山細石洲。

○同

有馬 橙村 岩國

水湛清川柳色新。多看遊客也斯辰。奇橋兼得江山勝。海內傳名已畱春。

○同

(狂詩)

靜間武奇陽 岩國

五反架錦川。形如屈尺蠖。無足以立流。洪水更不落。

勾配餘急車雖傾。細工甚奇人皆驚。年中引客集_{ルガ}金故。夙有算盤橋之名。

○錦帶橋

南方一枝 岩國

日出三竿霧未消。空濛深鎖五龍橋。行行疑是登仙去。人踏雲梯在碧霄。

○錦帶橋夏涼

同

白沙翠柳水迢迢。日暮錦川炎氣消。婦女尋涼來續續。衣香釵影月中橋。

○題自畫錦帶橋

大草小雲 岩國

第一風光多雪晨。納涼月夜好於春。五橋半在雲烟裏。唉語遙聞不見人。

○錦帶橋下を溯る

河東碧梧桐 東京

淵を深み舳を棹たゞくしぐれて溯ぼる

○錦 帯 橋

岩谷小波 東京

長き日や長き橋渡る人の數

○錦 帯 橋 歌

南部五竹 岩國

防州錦橋天下無。山秀水清似畫圖。山花如錦今已絕。錦水依舊以錦呼。錦橋不改當年色。蜿蜒五龍相追趨。記嘗誤落風塵裡。凌晨度雪入城郭。橋上雪深足屢蹟。且苦寒威凜裂膚。又記斜風細雨夕。天風捲傘衣裳濡。風景雖好不消受。二十餘年負名區。今日微官一從擲。山光水色頓覺殊。昨日度雪顛躡處。今日驢背燃吟鬚。昔日風雨濡衣處。今日風雨被夫須。風雪今日却爲趣。不教人苦教人娛。况復清明好風景。柳簾水樓煙模糊。又是涼秋好時節。一道金波月跳珠。此時朗吟橋上過。恍訝乘龍遊太虛。始覺仙凡不迴隔。悟則天道迷三途。陶潛歸去悔不早。何須題柱學相如。錦橋即是昇仙路。爲走名利爲凡夫。寄語橋上奔走客。盍讀錦帶橋歌乎。爲歌歌之豈無意。吾

元錦水一釣徒。

○過錦帶橋

玉乃九華岩國

訝看晴川浸_レ雪流。櫻花開偏水東頭。五龍橋上人如_レ織。不_レ解春風爲少留。

○示中島櫻軒

同

筑紫山陽伴_ニ翠蛾。風流莫_ニ是雪兒歌。請_レ君須_レ醉杯中物。錦帶橋頭今始過。

○錦帶橋上

同

楊柳千枝復萬枝。雨中傾_レ傘立多時。麴塵遮盡高樓外。笑語有_レ聲知是誰。

○錦帶橋記

南方一枝岩國

防之錦川發_ニ源於北境、合_ニ數十溪水_ニ而南瀉、下流漸爲_ニ大川、錦見橫山二村之間、兩岸相距百二十五間、然溪流急迅、勢如_ニ建瓶、以_レ故、平時水落、砂磧居_レ半、若夫霖雨連日、則暴漲殆沒_ニ兩岸、濁流奔騰、響如_ニ萬雷、上流諸村、山崩堤決、流_ニ巨材、漂_ニ屋宇、人畜之屍亦往往隨_レ流而下、當_ニ此時、一帶飛虹、

遙接對岸、人馬絡繹、往來於波浪之上者、是錦帶橋之所以爲奇工也、」舊藩祖吉川廣家公之築岩國城也、橫山爲內郭、錦見爲外郭、而川隔其間、每霖雨、舟楫不可施、架以尋常橋梁、則洪水一奪而去、不復見踪跡、上下苦之、及公孫廣嘉公嗣世、構思多年、遂口授工人、創造此橋、實延寶元年也、」川之中間、築巨基者四、而架五橋於其上、其高二十尺、左右尖銳、略成菱形、以便於水勢、皆疊大石以鉛填其隙、堅牢無比、蓋出於築城之法云、基內植巨石柱、以擰左右橋幹、每橋橋幹五條、先從兩基中架起、累材而相接、箍之以鐵、交互相推、愈接愈高、遂箇接兩端爲一、而接處又各有橫材以承之、幹上布用厚板、板隙覆用桐葉、左右有欄、升降有階、而基上蓋以石、塗以土、其結構實極壯麗、蓋木石銅鐵、錯綜相持、更無一柱之支、而高架雲霄、載重而益堅、自稱重學之理、奇工可驚也、於是、五橋蜿蜒於兩岸百二十間之間、恰若秦宮復道渡渭屬咸陽、真爲偉觀、且橋之南北凡六十間、河底皆甃磐石、令無水勢穿壞之患、可謂百世之偉業矣、爾來二百餘年、雖有久霖、洪水不能沒其基、而橋下洞然、巨材屋宇之流去者、皆瞰之脚下、行人不復知往來之艱、其德澤豈可勝言哉、」夫非常之舉、必要鉅萬之財、當時一基之費、不知其幾萬金也、是人人之所危懼不敢爲、而公唯洞觀百世之利、斷然不疑、所以建此偉業也、嗚呼絕世之業、豈齷齪者所能圖哉、

○錦 帶 橋

劉云高安藝

連綿錦帶五龍舒。直接青雲千尺餘。行客總侵星宿出。似聞環珮步清虛。

○題錦帶橋圖 (弘化二年)

鹽田隨齋伊勢

山陽春麗太平時。錦帶橋頭錦帶垂。香閣倚峰花似繡。酒樓臨水柳如絲。銀鞍畫戟過周道。綠傘紅裙映細漪。定知士人多伐闕。好教兒女飽遊嬉。

○錦帶橋雪月圖爲岩國一宮錦水

同

誰能高舉御天風。躡去連媯白玉虹。千尺飛梯取明月。振衣直入廣寒宮。

○錦 帶 橋 (明治三十二年)

張燕韓國

錦帶橋四韻賦成、時維己亥初秋

五帶虹橋一葉亭。鬱蘭叢竹滿長汀。江水凌清蛟戲鏡。城山環翠繡添屏。織女浣紗纖月白。詩仙擊棹遠雲青。悠悠故國知何處。遙想君親恨未醒。

○送二宮錦水歸周防錦帶橋里

梁川星巖江戸

三歳文場交已熟。可レ堪此日送ニ征軸。離腸酒咽難レ爲レ醉。別路雲開故引レ愁。殘雨夕陽幽嶺樹。一篷明月攝津舟。西歸知爾才彌逸。筆翰風高錦水秋。

○錦帶橋

見山一如岩國

題柱匪レ無レ客。濟川功亦輝。誰知五龍見。追レ尾攫レ雲飛。

不用蹁躚騎レ鶴遊。不レ須廿四說ニ揚州。五龍橋上攀ニ龍背。直御ニ天風ニ問ニ斗牛。

○錦帶橋流失所レ見

同

一世奇工百世標。詎圖流壞不レ終レ朝。五龍蜿蜒還元日。改看周陽錦帶橋。

○錦帶橋歌

歩橋上憶故
吉川有格公

東澤瀉岩國

錦川之澌。溶溶入ニ海流。橫山之翠。沈沈帶烟幽。憶昔先公曾鎮レ此。儒教化ニ民民俗美。婦女不レ飾紅錦裳。士子惟嗜經且史。稻雲布レ地樹連レ天。養レ生喪レ死忘ニ艱難。仁厚之里孰得レ比。富強名振開西間。封

建運盡國勢轉。小吏竊改舊憲典。蠻館突兀聳如山。弓弧威重春澤漫。世習一移難復爭。唯見靡風搖人情。編戶不聞繅車響。照眼樓臺夾岸明。誰家少年白其馬。被髮如墨艷如火。投鞭樓前急呼酒。不論鳳羹與龍鮓。紅娘侑觴搖翠眉。停雲新聲堪盪思。此時何遑顧名節。滿袖纏頭任意擇。誰憐遺臣病未死。重來橋上立移晷。欲說往事淚如雨。九原漠漠不可起。嗚乎九原不可起。

○錦帶橋小唄

岩國小唄の内

野口雨情 東京

(本書著者の岩國町長たる時、此山紫水明郷にして名勝錦帶橋の奇絶あるにかゝわらず、一の優美高雅の俚謡なきを歎じ、乃ち民謡詩人として其名高き雨情野口氏を岩國に招き岩國小唄を作らしむ。俗に之をカラソコロン節と稱して俄に流行歌謡となる。今その錦帶橋及び其環境に關する數節を掲ぐ。)

誰に逢ふやら錦帶橋はしを、からんころんと下駄でゆく

天の橋やら錦帶橋はしは、落ちも流れもしあしない

錦川原もまだ夜は夜中、鳴いてくれるな川千鳥

立つは川霧岩國は夜あけ、山は城山ほのぼのと

錦川すぢ鮎は瀬をのぼる、ながす筏は瀬を下る

今も變らぬ槍こかし松の、枝も下ゆく人のぞく

吉香公園中國一の、春は櫻の花となる

切れる氣はない切れてはならぬ、夫婦楓の縁むすび

紅葉谷から瀬戸内海うちうみの、沖の白帆もひと眺め

○錦帶橋歌并引

岡 鹿門 東京

(鹿門岡千俊明治二十九年岩國に來遊し文人墨客と交わり此作あり。書して竹軒河上逸翁に贈りたるもの。是れ。)

吉川侯三世祖廣嘉憂錦川暴漲輒流ヨ失橋梁。一日觀焦ヨ餅成弓狀ヨ有所悟曰得架橋之法ヨ授兒玉
貞矩ヨ創意架築不復流失ヨ實延寶年間之事。

攝稱天満武吾妻。大橋截江懸彩霓。堅築六材興銅鐵。機巧傳訣自歐西。誰知錦川錦帶橋。明賢創始出別裁。河廣容刀急流激。壑坼峽束竦蒼厓。誰始架橋苦心匠。一朝天秘漏端倪。鼎峙水中石底柱。巉礪稜角當流漸。屬負背受橋百尺。級級層起昇天梯。巨桷雙接勢交拒。牢礎中立力抗排。橫截碧流通興馬。高界青山瞰市街。宛然老蛤潛淵底。縹渺青霄現樓臺。尤偉二百餘星歲。穹窿屹然立水涯。傳說孔明八陣圖。中流萬古免擠擢。錦帶橋亦無乃是。偉哉明賢創始才。歐風一開競新奇。談及古賢笑口開。天満吾妻真機巧。明賢創始亦偉哉。請君來觀錦帶橋。愈覺明賢不可階。

(衡山客次錄爲河上仁兄大人鑒政維歲次丙申八月)

○四季の錦帶橋

肌香同人會 岩國

月の道 錦帶橋へおのづから

錦帶橋涼し街の暑さをぬけて来て

錦帶橋月の人出となりにけり

花の冷まさに錦帶橋昏るゝ

花疲れ錦帶橋を戻るなり

錦帶橋に出でゝ見にけり遠花火

錦帶橋映して秋の水澄めり

霧の海錦帶橋は夢と浮く

荒神輿錦帶橋の瀬に涼し

爽な瀬音となりぬ錦帶橋

雪晴の錦帶橋と城山と

遠河鹿錦帶橋の闇深かむ

錦帶橋暮色となりし寒鶲

〃 〃 〃 〃 花 翠 〃 〃 空 々 梧 葉

笑 南 予

月今宵錦帶橋に立ちにけり
やゝ醉ひし獅子舞錦帶橋を來る
初霜や錦帶橋の反り規し
バス降りて月の錦帶橋に立つ
車馬他所に錦帶橋の月涼し
錦帶橋三千の河鹿放ちけり
初日拜む錦帶橋にたちにけり
錦帶橋に螢の闇の迫りけり
花の座を錦帶橋の邊にきめぬ
花の雲錦帶橋の四方に展ぶ
錦帶橋曇れば花の土堤もまた
大河原花のそり橋うちかむり
錦帶橋わたりて花の遅速かな
錦帶橋わたる用あり餘花の雨
廣嘉公に逢ひたる橋の艶かな

" " 南甲直 " 虹和二 " 叫 " " 薫 "

江兒也 雨憲郎 石風

錦帶橋見ゆる二階の櫻餅
錦帶橋鳥が飛びて麗なる
錦帶橋櫻の空に朝が來し
渡れば戻れば錦帶橋や花の町
花を待つ錦帶橋となりにけり
錦帶橋夏雲渡り人渡る
錦帶橋花の大明小路かな
錦帶橋渡れば花の武家屋敷
行く春を錦帶橋に惜しみけり
錦帶橋の手すりの艶や春日景
宿の窗花の錦帶橋かゝり
花の上錦帶橋のもりあがり
虹のごと錦帶橋を花に架す
錦帶橋を旅情をつゝみ花の瀑
散る花をすかして五橋見て居りぬ

白〃鬼〃比素〃五〃〃南〃〃梵〃

烽呂倍

葉火詩人子山忍

山と五橋の岩國花のさかり哉
花吹雪錦帶橋に狂ほしく
臘夜の錦帶橋を渡りけり
花の冷錦帶橋に夜雨至る
花の人錦帶橋にこぼれさう
旅人われ花の五橋のもとに立つ
錦帶橋微光に添いて春暮るゝ
初詣雪の錦帶橋渡る
事務の窗錦帶橋の花見ゆる
花疲れ錦帶橋の欄干に
窗に見る錦帶橋も花も暮れ
河鹿鳴く錦帶橋の夜更か
錦帶橋の早瀬となりぬ花見舟
散る花を錦帶橋に惜しみ立つ
花の冷錦帶橋は暮色に

" " " " " " 圭美あみ比炎石

都きち

月女ら子棹王猿

初霞錦帶橋の水な上に
錦帶橋のしめり芽出度し初詣
花の雲白し錦帶橋古りぬ
花に架る錦帶橋を渡る也
起きぬけを錦帶橋の花にたつ
錦帶橋かき消す春の雪霏々と
錦帶橋五年渡りて卒業す
川霧に花ぬれ錦帶橋ぬるゝ
賓に錦帶橋の餘春かな
蛇籠編む錦帶橋のたもとか
河鹿澄む錦帶橋に旭さし來
錦帶橋の下の磧に涼みけり
流燈わ夢の錦帶橋かゝる
城山も錦帶橋も雪おきぬ
錦帶橋見に來し夷戻りかな

金

鮎の瀬に錦帶橋は影かさね
星涼し錦帶橋を人去らず
千鳥鳴く錦帶橋の夜更かな
花火高し錦帶橋の闇深し
錦帶橋の霧にぬれけり秋の帳

橋に立つて城山仰ぐ青嵐
櫻人錦帶橋を踏み鳴らす
殿様が橋見る部屋の臘かな
錦帶橋裏よりも見る花曇
川上より来る春風や錦帶橋
夕霞かけし城山橋に見たり
春燈遠く錦帶橋を浮べたり
春の風錦帶橋を皆渡る
錦帶橋五つ渡りし臘かな

〃 〃 月 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

春惜しみ錦帶橋を見返りつ

濃き日陰錦帶橋を麗にす
あこがれの錦帶橋に春惜む

初霞錦帶橋を渡り度き

○錦帶橋を弔ふ

(昭和二十五年九月十四日錦帶橋洪水の爲に流失す。今之を弔ふ。)

錦帶橋墜ちて淋しや蟲時雨
錦帶橋流れて淋し秋の風
生れてよりの五橋を語り秋の風
錦帶橋の名残かなしや鶴と我と
錦帶橋を弔ふ句座や秋の雨
錦帶橋流れし岸の曼珠沙華

青木月斗 王 "

樹九州

圭花知叫二白

葉石郎

錦帶橋流れし名殘秋燕

名橋おちて岩國の秋さみしらに

廣嘉公の嘆きと降りぬ秋の雨

日本一の橋でありしを秋の風

錦帶橋の架りゆし瀬の霧さむし

國を擧げて惜しむ橋なり秋の風

秋の川名橋落ちて水瘦せたり

秋出水怖ろし橋を眞二つ

吉蒲公英佐世保
史大阪

川題深

錦城長恨歌

昭和十八年八月中旬賦

永田岳淵

攢峰鬱乎繞東周一
天斧斷割放奔流一

攢峰、鬱乎として、東周を繞ぐる
天斧、斷割して、奔流を放つ

長 峡 純 洞 三 十 里

長峠、純洞、三十里

窮 溪 噴 薄 百 餘 洲

窮溪、噴薄、百餘洲

川 環 岩 都 岸 漸 潶

川は、岩都に臻りて、岸漸く澗く

水 貢 錦 城 江 遷 漚

水は、錦城を貢ぬいて、江遷よ漚かなり

清 冽 灑 巾 白 於 雪

清冽、巾を灑げば、雪よりも白く

紺 碧 浸 身 翠 似 構

紺碧、身を浸せば、翠構に似たり

夜 半 有 時 生 大 雾

夜半、時有つて、大霧生ず

晨 曜 上 遅 虹 龍 浮

晨暉、上ること遅くして虹龍浮ぶ

飛 謄 雲 動 瀚 聲 急

飛騰、雲動いて、瀚聲急に

搖 曳 煙 散 山 容 幽

搖曳、煙散じて、山容幽かなり

霽 色 凄 冷 如 沐 後

霽色、凄冷、沐後の如し

身 立 於 錦 带 橋 頭

身は、錦帶橋頭に立つ

橋 東 連 蓉 家 萬 戶

橋東、蓉を連ぬる、家萬戸

一 亭 酒 旗 映 青 邸

一亭の酒旗、青邸に映す

春 風 翩 翩 呼 南 燕

春風、翩翩、南燕を呼び

秋光橫流迎北鷗
此亭周東稱第一
酒芳穀美少匹儔
况是花心月魂暮
雨情牽人深川樓
最嘉主人性廉直
律義守信如金甌
青年游京學庖宰
寄身名題福井樓
此樓瀟洒枕墨水
烟霞拂欄櫓聲柔
夾溝江兩國角風
千疊廣筵招仙俗
萬賓高會任去留

秋光、橫流、北鷗に迎ふ
此亭、周東第一と稱す
酒、芳しく、穀美に、匹儔少れなり

況んや是れ、花心、月魂の暮
雨情、人を牽く、深川樓

最も嘉し、主人、性、廉直

律義、信を守る、金甌の如し

青年、京に遊んで、庖宰を學ぶ

身を寄す、名題の福井樓

此樓、瀟洒、墨水に枕み

烟霞、欄を拂ふて、樓聲柔なり

江を隔てて、兩國、角風撼さ

溝を夾みて、柳橋、絃雨稠し

千疊の廣筵、仙俗を招き

萬賓、高會して、去留に任かす

瑞觥玉盞應聲酌
 巨口細鱗隨手鉤
 大盤小盤堆膾灸
 鹽梅之美天下優
 深川樓主偏修業
 歸鄉築亭大明街
 刻苦精進比侔
 時日清開鬱讐
 兵火忽熄瑞光耀
 高樓呼酒譁唱酬
 深川魚肥清醡漲
 聲譽漸傳如置郵
 樓主有婦名高子
 美胖豐嬌兼佳謀
 延客縱橫機略

瑞觥、玉盞、聲に應じて酌み
 巨口、細鱗、手に隨つて、鉤す
 大盤、小盤、膾炙堆かく
 鹽梅の美、天下に優さる
 深川樓主、偏へに、業を修む
 役苦、精進、比侔を抜く
 郷に歸り、亭を築く、大明街
 維時、日清、鬱讐を開く
 兵火忽ち熄んで瑞光耀やき
 高樓、酒を呼んで、唱酬、譁すし
 深川、魚肥え、清醡、漲ざる
 聲譽、漸く、傳はりて、置郵の如し
 樓主、婦有り、名は高子
 美胖、豊嬌、佳謀を兼ぬ
 客を延いて、縱横、機略に妙に

内助外交莫ニ遺説

内助、外交、遺説なし

經營年昌増ニ層閣

經營、年に昌んに、層閣を増し

百尺樓高酒帘抽

百尺樓高く、酒帘、抽んず

機會遭遇雖レ成レ運

機會遭遇、運を成すと雖も

夫信婦慧得ニ好速

夫は信、婦は慧、好速を得たり

日露修交戢兵返

日露交りを修め兵を戢めて返へる

世界一家還無仇

世界一家還た仇無し

郷黨賣劍和氣爽

郷黨、剣を賣つて、和氣爽やかに

行客傾尊逸興遁

行客、尊を傾けて、逸興を遁くす

酒中劍無し劍外酒あり

酒中、剣無し、剣外に酒あり

田歌闇滿レ從是頓一變

田歌、闇に満ちて、贋牛肥えたり
風潮、是れ從り、頓に、一變し

锦城景物碧於油

錦城の景物、油よりも碧なり

三峰橋雲踪出舊愁

三峰の雲踪、舊愁を出づ

櫻 芬 繢 紛 吹 壮 士
柳 眼 霧 霽 騎 騶
深 川 樓 上 雲 飛 驪
會 盟 俊 銳 呼 嘯 攝
經 緰 滿 腹 策 如 沸 捜
方 略 自 在 似 囊 搜
奮 興 鄉 土 報 國
甲 唱 乙 論 百 計 獻
政 治 產 業 或 教 育
鐵 道 水 電 企 無 究
志 氣 振 發 冠 歷 代
公 憤 競 起 訐 協 劍
岩 都 今 日 成 肩 賑
孰 識 發 端 斯 胎 胚
町 宰 森 生 好 幹 旋

櫻芬、縢紛として、壯士を吹き
柳眼、霧霽として、騎駶に灑ぐ
深川樓上、雲、飛駪す
會盟の俊銳、呼嘯して摶む
經緰、滿腹、策、沸くが如く
方略、自在、囊を捲るに似たり
奮つて、郷土を興して、君國に報ぜん
甲唱へ、乙論じ、百計に獻る
政治、產業、或は教育
鐵道、水電、企てゝ究り無し
志氣の振發すること、歷代に冠たり
公憤、競い起りて、協効を誓ふ
岩都、今日、殷賑を成すも
孰れか識らん、發端、斯に胎胚す

好飲好談且好諫
麴車逢友傾蓋語
醺泉誘客淋漓歛
管絃談笑決事理
胎胚其功居斑曾
堂長太田嫗世故
細心老練巧琢劉
松井西村兩顆脫
多計多策交相詶
西村銳雋蓄機智
趁風騎雲翔空鶴
松井矜傲放逐大曠
白眼罵世負鷗彪
鵠彪角逐夢一枕
如今老去相押揉

よく飲み、よく談じ、且つよく諫る
麴車、友に逢うて、傾蓋して語り
靈泉、客を誘ふて、淋漓として歛ふ
管絃、談笑、事理を決す
胎胚、其の功、斑曾に居る
堂長、太田、嫗世故に嫗ふ
細心、老練、琢劉に巧みなり
松井、西村、兩つながら顎脱
多計、多策、交もぐ相詶ふ
西村、銳雋、機智を蓄へ
風を趁ひ、雲に騎り、空を翔るの鶴
松井、矜傲、大時を放ち
白眼、世を罵しる、鷗を負ふの彪
鵠彪の角逐も、夢一枕
如今、老い去つて、相押揉す

理財 倉重 長經濟
機才 縱橫 百功收
電技 上林 練達資
燈火 遍照 明蟻螻
侃諤 白銀 有奇骨
左繙論語 右牙籌
郡宰 藤富 與松浦
國是 開發 多所
藤富 溫恭 循方正
松浦 豔達 莫拘掲
君不見 周東三十
四町邑
環巖自成範疇
玖西萬頃膏腴地
千門鬱葱豐糧稼

理財、倉重、經濟に長じ
機才、縱橫、百功を收む
電技、上林、練達の資

燈火、遍へに照らす、蟻螻明かなり
侃諤、白銀、奇骨有り

左繙論語を縹き、右に、牙籌
郡宰、藤富と、松浦と
國是の開發、麻ふ所、多し
藤富、溫恭、方正に循ひ

君不見、周東三十四町邑
松浦、輶達、拘掲するところ莫し
藤富、溫恭、方正に循ひ

環巖を環つて、自から範疇を成す
玖西萬頃膏腴の地

千門鬱葱として、糧稼、豊かなり

人材	彬彬	生隴畝
慷慨	揚鞭	齊參衰
三戶	熊野	爲領袖
田中	田坂	率群鍪
玖南	廣澤	面潮豁
共肥	穀菽	興鯛鰐
英俊	颯颯	敲枕起
義烈	會乘	游海桴
神田	在艤	小田舳
陣艦	桓桓	如貔貅
象氣	氤氳	涌大霧
千峰	崔嵬	水萬派
合爲	奔湍	震峽溝
楊井	堦江	其一黨

人材、彬彬、生隴畝より生じ
慷慨、鞭を揚げて、齊しく參衰す
三戶、熊野、領袖爲り
田中、田坂、率群鍪を率ゆ
玖南は、廣澤にして、潮に面して豁け
共に肥ゆ、穀菽と、鯛鰐と
英俊、颯々として、枕を敲てて起ち
義烈、會乗す、游海の桴
神田は艤に在り、小田は舳にあり
陣艦、桓桓、貔貅の如し
象氣、氤氳、涌大霧
千峰、崔嵬、水萬派
合爲、奔湍、震峽溝
楊井、堦江と、その一黨

玖南は、廣澤にして、潮に面して豁け
共に肥ゆ、穀菽と、鯛鰐と
英俊、颯々として、枕を敲てて起ち
義烈、會乗す、游海の桴
神田は艤に在り、小田は舳にあり
陣艦、桓桓、貔貅の如し
象氣、氤氳、涌大霧
千峰、崔嵬として、水は萬派す
合して、奔湍となり、峽溝に震ふ
楊井、堦江と、その一黨

才 膽 奮 勇 煙 鐙 兜

才膽、奮勇、鎧兜焰やく

看來錦城似王座

看來れば、錦城、王座に似たり

衆星繞如連白璆

衆星、繞つて、連白の璆の如し

就中二星光芒燦

就中、二星、光芒燦たり

南台北宿駕天鵬

南臺、北宿、天鵬に駕す

伊陸將軍器局大

伊陸將軍、器局大なり

茫漠却似俊聰廈

茫漠、却つて、俊聰を廈すに似たり

雲洋縹紗吞清濁

雲洋、縹紗として、清濁を呑み

大舶汎汎載薰蕕

大舶、汎汎として、薰蕕を載す

世權博通制列宿

世權、博く通じて列宿を制し

書經深藏廸群妻

書經、深く藏めて、群妻を廸びく

一旦決志勢峻峭

一旦、志を決すれば、勢ひ峻峭

攘臂拍案言熱味

臂を攘ひ、案を拍ち、言熱味す

一且決志勢峻峭

一且、志を決すれば、勢ひ峻峭

蹠跋奔馳道阡陌

跋を蹠げて奔馳す、道、阡陌

步步生風未嘗休

歩々、風を生じて、未だ嘗て休まず

異 彩 最 佳 緘 巾 服
躄 跳 舞 扇 酒 間 泗
渾 原 將 軍 識 量 湛
淵 默 機 斷 如 蟠 虬
臥 龍 橋 畔 談 慨 世
城 山 翠 麓 策 鳴 聽
嘗 率 軍 旅 駆 汗 馬
又 將 輜 略 參 幕 壇
統 才 固 是 大 臣 器
韞 晦 持 已 光 如 孚
莫 遮 發 憤 氣 凛 烈
紫 電 一 閃 斬 魂 體
美 音 又 有 絲 竹 戲
淺 酈 低 唱 使 人 惆
噫 吾 盛 年 負 客 氣
噫 吾 盛 年 客 氣 を 負 ひ

異彩、最も佳し、緘巾の服

躄跣、扇を舞はして、酒間を泗ぐ

渾原將軍、識量、湛し

淵默、機斷、蟠虬の如し

臥龍橋畔、談世を慨し

城山翠麓、策世を慨し

嘗て、軍旅を率ゐて、汗馬を驅る

又、韞略を將つて、幕壇に參す

統才、固とは是れ、大臣の器

韞晦、己れを持す、光孚の如し

莫遮、憤を發すれば、氣凛烈

紫電一閃、魂體を斬る

美音、又、絲竹の戯れ有り

淺酌低唱、人をして惆ましむ

噫、吾、盛年客氣を負ひ

隨_ニ諸君_子一匡_ニ時瘳_ニ
濟濟多士清_レ筵坐
深川樓上群像膝_ニ
須記此樓公議館
杯盤豈徒爲醉啁_一
長廊蘭燈搖如_レ毬_ニ
隆閣風起日將_レ旰_ニ
絃絃彈來情綢繆_ニ
箏_ニ奏去氣恍慨_ニ
羣妓如花春風舞_ニ
賓朋如雲秋月謳_ニ
大絃絃名手名市助_ニ

諸君子に隨つて、時瘳を匡す
濟々たる多士、筵を清めて坐す
深川樓上、群像、膝はし
須らく記すべし、此樓、公議の館
杯盤、豈に徒らに、醉啁の爲のみならんや
長廊、蘭燈、搖いて毬の如し
隆閣、風起つて、日、將に旰んとす
絃絃、彈じ来る、情、綢繆
箏_ニ奏し去る、氣、恍慨
羣妓、花の如く、春風に舞ひ
賓朋、雲の如く、秋月に謳ふ
大絃は、號ぶが如く、小絃は歎くがごとし

楚 楚 妙 舞 名 阿 靜
恰 似 訴 判 官 楚 囚
別 在 婉 麗 名 阿 月
嬌 娥 玲 璞 宛 如 秋
花 明 窓 前 嘰 語 燕
柳 暗 河 邊 情 意 投
縉 紳 解 顙 徐 衡 盞
田 爪 緩 衣 遺 歸 隘
憶 起 當 年 好 酒 徒
粉 黛 繼 賞 百 花 蔑
盛 華 燜 煙 恍 如 畫
爾 時 俠 艷 今 在 不
茫 茫 隔 時 三 十 歲
世 事 幻 滅 如 浮 涵
樓 臺 徒 高 故 人 囂

楚楚たる妙舞、名は阿靜
恰も判官の楚囚を訴ふるに似たり
別に在り、婉麗、名は阿月
嬌娥、玲瓈、宛かも秋の如し
花明窗前、嘰語、燕み
柳暗河邊、情意投す
縉紳解顙、徐衡盞
田爪、衣を緩くして、歸隘を遺る
憶起當年、好酒の徒
粉黛、縱賞百花の蔑
盛華、爛熳、恍として畫の如し
爾時の俠艶、今、在りや不や
茫々、時を隔つること三十歳
世事の幻滅、浮涵の如し
樓臺、徒らに高ぶして、故人罔し

紫髯窗空明人不見
又無疇昔清明眸
簾窗空明人不見
才子佳人概歸土
轉懷壯春對梧楸
皓首轉眼觀樓主
樓主白頭均分憂
吾與樓主一生同巷
幼少執手送好游
七十三翁齡相若
悵然諧語往事悠
樓主有嗣仕親孝
恭謙受益家業脩
嗣婦宛轉容暎
克助家政傍雌鳩

又、囁き、空しく明かにして、人は見えず
紫翠、綠鬟の客、遇め難し

才子佳人 椿ね土に歸し

轉た、壯春を懷ふて、梧楸に對

吾、
樓主と、
同巷に生れ

幼少、手を執つて、迭ひに好游す

七十三翁、齡相若く

悵然諳に語れば、往事悠かなり

樓主、嗣有り、親に仕へて孝

嗣婦しふ、宛轉あんてん、容かたち
窈窕えうてうたり

よく家政を助けて、睢々に傍よ

有レ婢通稱名都宇
禽ニ縱醉客如レ操レ舟
杯盤狼藉扶ニ蹣跚
紅紫凌亂掃ニ蹣跚
傳云醉鄉一名物
仍レ誰梳妝半生週
嗚呼此樓長恨紀
欲レ賦哀樂交追求
方今世變澎湃拍
風濤震烈破ニ苟偷
企業統制循ニ國策
市廛轉向棄ニ緣由
樓主還將ニ安處之
往乎歸乎含ニ哀羞
五十年夢轉難結

婢有り、通稱名は都宇
醉客を禽縱すること舟を操るが如し
杯盤狼藉、蹣跚を扶け

紅紫凌亂、蹣跚を掃ふ
杯盤狼藉、蹣跚を扶け

傳云ふ、醉鄉の一名物

誰に仍つて、梳妝半生を週る
嗚吁、此樓長恨の紀

賦せんと欲して、哀樂交追求す
方今世變、澎湃として拍ち

風濤震烈、苟偷を破る

企業統制、國策に循ひ

市廛轉向、緣由を棄つ

樓主、還將に、安處に之んとする

往ん乎、歸らん乎、哀羞を含む

五十年の夢、轉た結び難く

老淚燈前濕衾裯
却說橋國夏過半
爽嵐颯颯生清湫
浮橋月皓疑霜早
沈江光遍磧敷球
誰家繁絃泣如雨
那邊流笛飄颻颻
堪思鶯翼飛別夕
離愁淚落郎君矛
我伴樓主徐曳杖
滿袂涼風如旌旒
遐望美人絕塵外
銀粉碎衣手可抔
皓首白頭倚欄笑
婆娑落地影却咻

老淚燈前、衾裯を濕す

却つて説く、橋國、夏半ばを過ぐ

爽嵐颯々、清湫に生ず

浮橋、月皓く、霜の早きを疑ひ

沈江、光遍く、磧、球を敷く

誰が家、繁絃か、泣ぐこと雨の如し

那邊の流笛か、飄として颻颻

思ふに堪ゆ、鶯翼、飛別の夕

離愁、涙は落つ、郎君の矛

我れ、樓主を伴ひ、徐ろに杖を曳く

滿袂の涼風、旌旒の如し

遐かに、美人を望む、絶塵の外

銀粉、衣に碎けて、手、抔う可し

皓首、白頭、欄に倚りて笑ふ

婆娑、地に落ちて、影、却つて咻しむ

休歎人生多知已
榮辱何必有封侯
今夜既得中天友
三人徘徊縱吟喉
君是千秋萬古月
我是天地一蜉蝣
合作百年渭濱叟
老少有命累罟罝
夜更深月愈白
露如微雨濕輕紬
二值良夜再遇
麾手招君君踟躕
只恐君光無顯晦
人寰自有盈缺惻
惟悲君心無陰霽

歎することを休めよ、人生、知己多し

榮辱、何ぞ必しも、封侯に有らんや

今夜、既に得たり、中天の友

三人、徘徊して、縱まゝに吟喉す

君は是れ、千秋萬古の月

我は是れ、天地の一蜉蝣

合さに、百年渭濱の叟と作る合し

老少、命有り、罟罝に累せられんや

夜更深、月愈白し

露は、微雨の如く、輕紬を濕はす

二たび、良夜に値ふて、再び遇ほんと欲す

手を麾いて、君を招く、君、踟躕す

只だ恐る、君の光、顯晦無からんも

人寰、自づから、盈缺の惻み有り

惟だ悲む、君の心、陰霽無からんも

游冀此良夜何如永
氣濛濛隔ニ明琤一
浮世又復難邂逅
夜色漫漫隨君適
金城山蒼蕭蕭趁我凍
夜色漫漫君隨我適
城山蒼寥萬古寢
金氣蕭蕭我趁而凍
浮世又復難邂逅
夜色漫漫隨君適
城山蒼寥萬古寢
金氣蕭蕭我趁而凍

游氣濛濛、明琤一隔ニ

冀くば、此の良夜い、何如ぞ永からんことを

浮世、又た復た、邂逅し難し

夜色漫漫、君に隨つて適けば

金氣蕭蕭、我を趁ふて凍ぐ

碧落萬里聲如嚙

雁行未到韻何楚

識織牽星河妯

應雁行未到韻何楚

識織牽星河妯

應識織牽星河妯

白露霧月邊下
 教愁人思別離憂
 或知姮娥長恨切
 墓羿歸思如箭錄
 靈藥竊奔羿既死
 憶月中精淚如澑
 霽漢邈漠迢迢道
 纏緣流輝送哀萩
 乍聞囁曉搖天到
 空明如畫聯驥馬
 騎上群仙采奕奕
 翠眉雪肌伴鸞鳳
 珠腋金臂憑驥鞍
 吟簫皤老肖曾識
 吹簫皤老肖曾識

白露、霏霏として、月邊より下り
 愁人教して、別離の嘆きを思は教む
 或は知る、姮娥、長恨の切なるを
 羿を慕ふて、歸思、箭錄の如し
 靈藥、窗み奔りて、羿、既に死す
 憶ふ、月中の精、涙澑るゝが如し
 霽漢、渺漠、迢々の道
 纏に、流輝に縁りて、哀萩を送る
 乍ち聞く、囁曉、天を搖かして到る
 空明畫の如く、驥馬を聯ぬ
 騎上の群仙、采奕奕
 翠眉、雪肌、鸞鳳を伴ふ
 珠腋、金臂、驥鞍に憑る
 吟簫、綠鬚、塵塵を隨ふ
 吹簫皤老、曾識に肖たり

援琴媛嬪送丂牟

喟然悅然堪思慕

驚見皆是故人頗

香魂深川樓上輩

才子佳人惡夷猶

攀如把手欲扶擁

形影髣髴氣迺迺

語如鄉音半神韵

咍咍談笑時呻呦

百鳥卿花紫氣喚

諸佛天人翔如鶴

霓裳羽衣隨風橐

蒼鬢雲鬟舞且歐

琴を援ぐの媛嬪、丂牟を送る

喟然、況然、思慕に堪ゆ

驚き見る、皆是れ、故人の頗

香魂、深川樓上の輩

才子、佳人、惡んぞ、夷猶するぞ

攀如、手を把つて、扶擁せんと欲すれば

形影髣髴、氣迺迺

語は、鄉音の如きも、半ば神韵

咍咍、談笑するも、時に呻呦す

百鳥、卿花、紫氣喚べば

諸佛、天人、翔けること鶴の如し

霓裳、羽衣、風に隨ふて橐ふ

蒼鬢、雲鬟、舞い且つ歐ふ

嗚呼邈哉漠哉人生
我等歸天界日月行
人生有年天界無曆
十方世界遍照光明
噫嘻悠哉天罔老少
嘻嘻大哉界無虧盈
錦城下瞰何夫鬱鬱
周東小區作殷賑京
伊昔我等營營攸植
嗚呼快哉如斯大成
快哉乎快反還非快
恃財侮德倚勢凌誠
物盛心衰利興道廢
妖靈徘徊將害庶氓
賄賊竊酬闔夜濟私

嗚呼遼たる哉、漠たる哉、人生
我等天界に歸してより日月行る
人生に年有り、天界に曆無し

十方世界、遍照光明

噫嘻、悠なる哉、天に老少罔し

嘻嘻、大なる哉、界に虧盈無し

錦城下に瞰る、何ぞ夫れ鬱鬱たる

周東の小區、殷賑の京と作る

伊昔我等の營營として植ゆる攸

嗚呼快なる哉、斯の如く大成すること

快なる哉、乎、快反つて還た快に非ず

恃財を恃み、德を侮り、勢に倚り、誠を凌ぐ

物盛んれば心衰へ、利興れば道廢たる

妖靈徘徊將に、庶氓を害せんとす

賄賊竊かに酬い、闔夜、私を濟す

蔑^レ法^計利^自他^交征^{詭^ト}
智^術寢^重大^義漸^輕
匹^夫任^勇驕^兒銜^俠
隣^保相^尅同^根相^烹
鱗^色鮮^美膏^肓臭^敗
天下^安歸^頽瀾^國傾^一
是^匪吾^志亦^匪爾^意
須^レ惟^世間^迷妄^常情^物
盛^心衰^利興^道廢^景仰^聖
靈^在天^后土^照覽^聖兮^順天^赫赫^光榮^聖

乍^見白^霧朦^朧闇^闇

乍^ち見る、白^く霧^く朦^る朧^くとして聞^く

鱗^色鮮^美なれども、膏^肓臭^敗す
天下^安くにか歸^{せん}、頽^瀾、國^傾く
是^れ、吾^が志^に匪^ず、亦[、]爾^の意^に匪^ず
須^らく惟^みるべし、世^間迷^妄の常^情
物[、]盛^んなれば心^衰へ、利[、]興^{れば道}廢^{たる}
景^仰せよ聖^謨、護持^{せよ神}絃^聖

皇^靈天^に在^り、后^土照^覽あり

聖^兮天^に順^{へば}、赫^々たる光^榮あり

蔑^レ法^計利^自他^交征^{詭^ト}
智^術寢^重大^義漸^輕
匹^夫任^勇驕^兒銜^俠
隣^保相^尅同^根相^烹
鱗^色鮮^美膏^肓臭^敗
天下^安歸^頽瀾^國傾^一
是^匪吾^志亦^匪爾^意
須^レ惟^世間^迷妄^常情^物
盛^心衰^利興^道廢^景仰^聖
靈^在天^后土^照覽^聖兮^順天^赫赫^光榮^聖

法を蔑ろにし、利を計り、自他交もぐ征す
詭讐を智と呼び、術數を道と稱す
智術、よく重く、大義、漸やく輕し
匹夫、勇于任じ、驕兒、俠を銜ふ
隣保、相尅し、同根、相烹る
鱗色鮮美なれども、膏肓臭敗す
天下、安くにか歸せん、頽瀾、國傾く
是れ、吾が志に匪ず、亦、爾の意に匪ず
須らく惟みるべし、世間迷妄の常情
物、盛んなれば心衰へ、利、興れば道廢たる
景仰せよ聖謨、護持せよ神絃聖

詭讐を智と呼び、術數を道と稱す

智術、よく重く、大義、漸やく輕し

匹夫、勇于任じ、驕兒、俠を銜ふ

隣保、相尅し、同根、相烹る

鱗色鮮美なれども、膏肓臭敗す

天下、安くにか歸せん、頽瀾、國傾く

是れ、吾が志に匪ず、亦、爾の意に匪ず

須らく惟みるべし、世間迷妄の常情

物、盛んなれば心衰へ、利、興れば道廢たる

景仰せよ聖謨、護持せよ神絃聖

管絃倏忽風蕭颼
夢幻轉瞬心恍惚
開眼清輝滿睡曉
奇哉生采如疇昔
靈顯昭昭此心悽
仰問清輝君不答
涼夜殘少天鷄歛
歸去來兮欲歸去
河漢濤靜颺如勦
雲度寒光追月映
月擺飛雲拂輕裘
雲追月駛我遽停
嗚呼奈何此良夜
烏鵲高飛月中樓

管絃倏忽風蕭颼

管絃倏忽たり、風、蕭颼たり

夢幻轉瞬心恍惚

夢幻轉瞬、心、恍惚

開眼清輝滿睡曉

眼を開けば、清輝、睡曉に満つ

奇哉生采如疇昔

奇なる哉、生采、疇昔の如く

靈顯昭昭此心悽

靈顯昭昭、此の心、悽しむ

仰問清輝君不答

仰いで清輝に問へば、君、答へず

涼夜殘少天鷄歛

涼夜、残り少ふして、天鷄歛ふ

歸去來兮欲歸去

歸去來兮、歸り去らんと欲す

河漢濤靜颺如勦

河漢、濤靜かにして、颺、勦の如し

雲度寒光追月映

雲度寒光を度りて、月を追ふて映り

月擺飛雲拂輕裘

月は飛雲を擺いて、軽裘を拂ふ

雲追月駛我遽停

雲追ひ、月駛れば、我れ、遽に停り

嗚呼奈何此良夜

嗚呼、此の良夜を奈何せん

鳥鵲、高く飛んで、月中に樓かる

人間那必須執着

人間、那んど必ずしも、執着するを須ひん

願生山澤爲鵠鷺

願くば、山澤に生れて、鵠鷺と爲らん

鵠鷺小禽廬草窟

鵠鷺は小禽、草窟を廬とするも

翹翔満月詠皇繇

翹翔にして、皇繇を詠ふ

休說謾言夫何事

説ふことを休めよ、謾言、夫れ何事ぞ

邊島戰酣勢如燄

邊島、戰ひ酣にして、勢、燄の如し

雷霆轟爆是何處

雷霆轟爆、是れ何れの處ぞ

銀河隕邊南洋州

銀河、隕つるの邊、南洋州

○錦帶橋

錦帶橋を降り昇りの花見人のくれ臘
雪解の錦帶橋を渡りけり

○巖國錦帶橋

橋裏仰ぎてはあしもの春ゆく水ぞ

碧

月

堂

指

童 東京

○錦 帯 橋

靜 石 廣島

桃花夾レ水幾枝低。十尺新流波拍レ堤。知是源頭春尙淺。寒槎載レ雪下ニ前溪。

○初めて錦帶橋を見る

吉川英治 東京

はからずもこゝに立つ日のあらむとは岩國川の橋もやなぎも

○初夏の錦帶橋

成田秀三

したゝれるみどりうつして錦河たくみの橋に初夏の風

○春の錦帶橋

宗 孝 東京

錦上に花を添えたる眺めこそなかめもあかぬ眺めなりけれ

○夜 櫻 の 橋

丹下弘男 岩國

夜さくらのおほろしろきにほのあかくそりはし五つうきてかゝれり

○長 橋

うきしづみ多かる世をばすがたにてかけ渡しけむこの長橋は

○錦帶橋心中のあこをすきつゝ

亡き人の鴛鴦ともならむ橋の瀬や夕風千鳥たゞ鳴くばかり

○流失錦帶橋

四季とともにかはる景色のながめよきはしこそ郷のほこりなりけれ

川水に花のまひも移ろひてながめえならぬ錦帶の橋

きながらに五つの虹のかかるかとみまがふばかり橋の浮きたつ
たくみにもかけしものかな橋裏の木組珠なそろばんのはし
國守のいさをたたへて世に高くとどろきわたる錦帶の橋

昭和二五九月中の日朝まだき錦帶橋は遂に流れし

うらみてもうらみはつきじ錦帶の橋をながしし川の大水

佐藤周太郎 東京

岡 鯉 観 岩國

木村帶月 岩國

流れゆく錦帶橋に手を合はしおのづととなふ彌陀の稱名
かぞいろを葬るおもひに流れゆく錦帶橋をしばしおろがむ
繪にも書き歌にも詠みて幾とせかわたりし橋のおちてさびしも
すさびにしきジア嵐をうらみつつ見るもかなしき橋の落ち跡
名の高き錦帶橋のおちし音はくにの内外にとどろきにけり

はしとはしのはしを残して中側のはしの礎水のさかまく

渡し守みさをさす手もたくみなりはしの由來をものがたりつつ
ながれたりといへど日本觀光地の百選一位のほまれ嬉しも
全額を國庫負擔に架けかへてはしは音の姿かへさん
起工式もめでたくすみて錦川のみづにうづまく橋架くるひと
ながれにし跡に築ける再建の工事を見つつわたる假橋

○錦 帯 橋

西川白峯岩國

花によし紅葉うつして錦川かゝりてはゆる五つ反はし
ふかゝすみ松かけに動く只一つ龍とまたゝく錦帶橋かな

○錦 帯 橋

すみ染の我身なれどもゆるせかしにしきの帶のはしをふめども
五つそりの橋のほまれば錦川その名流せりうみの外まで
花の春紅葉の秋をいは國にいつも來て見よ五つそりの橋

○錦 帯 橋

移り行く世の有様をよそにして其の名むなしときんたいの橋

○錦 帯 橋

かづあれどげにたくひなし錦帶のその名高くもたゞえける橋
そろばんの名をばかざして世に高くひびき上げたる橋はこの橋
つえひきし旅のつれづれしのばれて錦帶橋のおも影に立つ

得

彰

清

竹重かずえ 中須

○錦 帯 橋

井 下 濑 師木野

月雪に花にこゝろも打ち交す名もなつかしきにしき帶はし
たくみなるわざのかけはし錦帶の名は世に高くたゞへわたりぬ

○錦 帯 橋

米 村 田 鶴 子 岩 國

みづさるの狂へどかたき石疊ゆるぎもみせぬ錦帶のはし
わがさとのほこりともなり世に高く名をたゞへたる錦帶の橋

○錦 帯 橋

藤 本 ゆ きえ 岩 國

長旅のうさをはらしの國自慢かたるもうれし錦帶の橋
花もみぢ趣そへて錦川名に負ふはしのいととうなはし

○錦 帯 橋

中 野 指 月 由 宇

舟をさへよせてあふぎつ錦帶のはしのつくりのそのたくみさを

名にし負ふ錦帶橋のうつし繪にあこがれにけり都人たち

○錦 帯 橋

たぐひなきにしき川原の帶橋はやがて御國のたからなりけり
心あらむ人は河原に下り立ちてそろばんばしのわざやたゞへむ

○錦 帯 橋

ささらがた錦の帶をはへわたす橋のうねうねうつる川なみ

○錦 帯 橋 (十一首)

五つ反りの橋の姿のめてたさに裏のたくみを知る人そなき

錦帶橋股覗きする人のあり面白からん我もしてみん

移り行く世の有様をよそにしてあはれ名のみはきんたいの橋
ほこりかに遠つみおやのわたりけんこの橋なりし始めての日に
國々の小唄をつくるをのこありてからんころんと唄をつくれり

中柴紫水由宇

山田龍岩國

朝枝俊三

たゞひとり錦帶橋に立ち居れはなくさめ顔に月は出てにけり

日本の三橋の一と人誇るほかの二橋は人知らぬなり

もろこしの西湖の中の橋の名をえらひし人の心きかはや

反り橋に翁留めよ雪の朝四方の景色は美しくとも

唯二つ變らぬものは錦帶の橋の景色と城山の松

錦帶橋涙の川を流がせかしつかさは水をとむると云ふそ

○錦 帯 橋

踊るかに五橋かゝれり花曇
繪日傘や錦帶橋にまた一つ
月に更る錦帶橋の雪夜かな
繪日傘の乳母招くあり五龍橋
天に描く錦帶橋の墨繪かな
橋に佇つ若葉の山の晴れて來し

茨 其 黃 錦
大島 二峰 吉田 其 天
石 同 同 同 同
如 枫 岩園
水 天 石 同 同

○錦 帶 橋

山縣舍芳岩國

玉壘青山夾_ニ錦川。虹梁隔映霧中懸。城樓三十三天上。人出_ニ櫻雲入_ニ柳烟。

○同

鹽谷艸溪同

聯々跨_レ水恰如_レ虹。月雪春花又朔鴻。不_レ見技工尤妙巧。名橋錦帶四方隆。

○同

上田西山同

龍匣泛_レ舟尋_ニ絕壁。城山對_レ月弔_ニ英雄。吉香祠畔看_レ花遍。錦帶橋頭賞_レ水豐。

○同

八十二翁 竹 雨 同

濛々細雨草爲_レ氈。錦水洋々柳色妍。風月樓額何見處。五龍蜿臥在_ニ長川。

○錦 川 納 凉

門田杏鳩 同

五龍橋下綠波恬。輕舸呼_レ杯對_ニ玉蟾。過雨無_レ痕夜如_レ水。一川涼味潤_ニ疎簾。

○錦 帶 橋

稻田九臯廣島

五龍啣尾度雲途。錦帶奇工海內無。聯袖倚欄人一笑。只言黃帝上天圖。

○錦 橋 秋 夕

熊谷翠軒岩國

雲煙散盡幾峰巒。五洞橋頭秋色闌。月在天心風在水。夜深人倚最高欄。

○同

隔岸樓樓枕錦流。蘆花楓葉望悠悠。夜深塵斂涼如水。月上長橋一笛秋。

○橋 下 鵜 飼

同

輕艇放鵝下急流。江楓漁火夜山悠。興來傾盡百杯酒。珍重香魚上膳羞。

○錦 橋 春 景

同

錦帶橋邊望靄然。樓樓占得洞中天。山雲凝彩鶯鳴靜。柳綠花紅春一川。

○陪沖原東兩將軍錦川舟遊

同

一櫂清歌千里流。望中崖樹夕陽收。徐吹華髮風過水。斜照酡顏月在舟。嵐氣腳橋擁城畔。波聲
劈石下灘頭。與君此夕俱幽興。爲問佳期可再不。

○錦帶橋邊歸臥偶作

同

驛樹亭榭路迢迢。鐵車載夢趁奔飈。故園西指防州地。歸去來兮五龍橋。客舍多年風塵苦。欲將餘
生從農圃。鄰里懽迎先卸裝。促膝談笑真樂土。舉頭衆壑疊碧蒼。低頭橋下水決決。滿目風光適
吾適。草堂雖小復何妨。出門逍遙步移屐。某水某山感疇昔。先公遺愛十丈松。高僧記念一勺石。吸
江亭深帶龍腥。化城窟古凝蘭馨。日暮溪口風露冷。歸鶴一憂山更青。偶有友朋齋詩案。花擁籬
落。月侵幔。呼取家僮摘蘿蔬。壺觴傾盡不及亂。醉後陶然隱几眠。不知富貴在那邊。鬢毛斑斑
身仍健。相逢人道老少年。

○昭和癸酉七月與諸子游錦帶橋有作

橋本關雪

掛得天孫錦帶同。驚看奇巧奪神工。晚來乘興過欄角。飄忽身疑渡碧空。

兩岸樓臺午日閑。半臨_ニ錦水_一半青山。飛虹中掛高千尺。人往_ニ嵐光浮漾間。

○與_レ某步_ニ吉香公園

天山居

錦帶橋西一路斜。聯_レ衣徐到野人家。看看霜氣醉_ニ楓葉_一。真個紅_レ於_ニ二月花。

○錦帶橋秋月

倉重雪畝岩國

錦帶長橋落日收。蕭蕭疎柳古城秋。月浮_ニ東嶺_一三千尺。一醉相望忘_ニ百憂。

○登城山

上林岡陽岩國

荒逕繁紜荆棘滋。雲籠_ニ林木_一鳥聲稀。舊墟蕭寂無_ニ人賽_一。一片空存護館祠。

○錦川舟遊

同

趁_レ涼人過兩龍橋。橋下紅燈影動搖。泛_レ艇月明風爽處。清潭時看白魚跳。

○錦帶橋

同

恍訝五虹橫_ニ半天。奇工構思自超然。濟他風雨錦川漲。君澤浴來三百年。

○錦帶橋秋色

中村不摘岩國

滿山楓樹映吟眸。碧水流漫帶錦流。峽際孤舟人在否。五龍橋畔一天秋。

○錦帶橋流失

同

急雨颶風漲錦川。名橋忽沒正淒然。休言天災已時去。色即是空三百年。
水激龍橋墮。礎頽嗟逝川。浮沈千古事。塵外送流年。

○祝錦帶橋起工式

同

錦橋流失慘崩痕。再建悲願舉市喧。任爾難工無誤算。千年不落遺兒孫。

○錦帶橋

栗栖坦堂山口

虹飛龍臥態何矯。一碧清流架錦橋。維昔藩侯凝意匠。巧思精構古今超。

○錦帶橋流失

田中翠南岩國

錦川文化故鄉天。至寶名橋三百年。何事一朝洪浪沒。願圖再建永相傳。

○錦 帶 橋

足 立 北 鷗 同

奇工莫レ脚五橋連。高截出レ空架ニ錦川。四海萬邦無ニ齊類。東西今古絕ニ駢肩。飛龍躍レ月身離レ水。行客
顛レ霜足蹴レ天。最好夏宵憑レ欄處。涼風直目ニ漢河傳。

○同

東 澤 瀉 同

垂楊夾レ岸亂ニ春風。一帶錦川漲ニ落紅。曉雨新晴霧未レ斂。五龍躍在ニ半空中。

孰向ニ空中ニ截ニ落霞。彎彎只見五龍斜。吾鄉風物不レ堪レ說。但有ニ飛梁向レ客誇。

○同

大 島 陽 亭 同

青山對峙題稜々。錦水清流冽似レ冰。幾萬寒鴉噪ニ斜日。橋頭隱見翠烟昇。

○同

橫 山 健 堂 東 京

紅葉青山幽絕處。如レ斯風景倩レ誰描。我來幸遇ニ月明夕。萬里清光錦帶橋。

○同

八十六老 高木 樂水 岩國

錦帶橋頭春雨晴。垂楊映レ水水逾清。城山併得景如レ畫。河底看レ花萬樹櫻。
雪々風々衝レ雨來。全身一白白レ於レ梅。橋頭獨立八旬老。萬苦千辛還快哉。

蹤今六年錦帶橋通過之際。會ニ大風雪ニ殆不レ辨ニ咫尺。壯絕快絕不可レ言。幾回向レ天叫ニ快哉。仍約ニ之廿八文字ニ以供ニ後日之一笑。

○和 高 木 翁

永 田 岳 淵 同

橋上嘯吟雲去來。清癯春淺似ニ寒梅。英々白々如ニ花戲。撲レ面雪風還快哉。

○錦 帶 橋 (十三首)

同

橋畔馬嘶號令明。西征壯士慘無レ聲。彎々行陣高歌度。吹レ雪春風花滿レ城。

陽春四月錦帶橋上赴々武夫進軍盛觀

流螢點々水光明。垂柳橋頭玉笛聲。江閣誰家爲ニ別恨。郎君征戍海南城。

初夏錦帶橋頭夜情、征夫應召將赴南洋

雨霽翠巒橋影明。柳煙漂渺送ニ船聲。櫻雲倒蘸瀾搖漾。春水漫漫錦帶城。

櫻花千樹不_ニ錢徵_一。醉興一瓢無_ニ法繩_一。漫々相逢橋畔暮。佳分_ニ半朶_一托_ニ歸僧_一。

五龍橋畔柳依々。蓼磧歸鴉帶_レ雨飛。憶昔青春吟嘯地。櫻花散盡故人稀。
前山後岳翠重々。一派錦川聯_ニ五龍_一。善_レ雪佳_レ花宜_ニ九夏_一。檀郎景色筆橫縱。

司法書士前山善九郎君樓前錦帶橋起焉。書而贈。詩中介_ニ點其氏名_一以下同。

重橋夜渡曉明還。殘野綸光月一彎。步々高低心不_レ泰。癢夫、髮鬚道間關。

醫師重野泰夫君患家疾篤。診療看護徵_ニ曉明_一而歸。

家在_ニ旭街中澤邊_一。五龍欄外錦川前_一。千枝櫻柳嘉春繞。從_レ古治橋孫子傳。

中澤千嘉治君世爲_ニ錦帶橋工匠_一。故云。

槍倒松青幾百年。橋頭時運事長傳。觀參侯伯連_レ戈伏。六萬石臣初哄然。

長橋運君住_ニ錦帶橋畔槍倒松之前_一。故云。

家祖守_レ津眠_ニ柳烟_一。凌雲橋就護_ニ梁邊_一。元功第一傳_ニ孫裔_一。錦帶成_レ虹三百年。

橋守元一君家祖守_ニ渡津_一橋成而守_レ橋、自爲_レ姓至_ニ今代_一。

大雪朝晴銀磧堆。金烏斜照一浮城。五橋無_レ本空中起_一。驚見白龍高_ニ眼睛_一。

白本金一君住_ニ橋邊_一面_ニ錦川_一。朝暮觀賞焉。

橋西橋北錦屏山。峽口奔流成_ニ碧灣_一。天造閑看吾住境。櫻楓紅白映_ニ酡顏_一。

西口住造君亦住ニ河上橋ニ故云。

篠笛風清白露秋。廣原烟遠荻蘆洲。行吟一夜龍橋上。昔者人稀明月樓。
與篠原廣一君ニ月夜步ニ橋上ニ憶ニ故友。

○錦帶橋暮歸

詞

浮嵐夕上御城山。錦帶橋頭分レ袂還。柳絮未レ飛人獨嘯。高楓散盡點ニ双鶲。長江泊泊烟中沒。坦路迤邐水霧間。吟步歸來回首看。連峰落日照ニ朱顏。

○錦帶橋頭歲暮贈レ友

同

旦屬ニ飛觴ニ送ニ歲華ニ。君康我健歎ニ懷沙ニ。栖栖巷陌牙籛話。澹澹爐邊耽ニ聽巴。俚句遲成年將逝。櫻蕾早既哺ニ紅霞ニ。纏看亂雪過レ江後。一棹春風兩岸花。

○錦帶橋新春

同

吾家在ニ錦帶橋東ニ。萬派朝宗海接レ空。浮島入レ窗滄瀾霧。走帆過レ島白簾風。吟人常喜茆檐室。塵客初驚屋一蓬。莫レ說新年何所レ興。百千黃卷紫微宮。

滿眼年新錦帶橋。跳龍曲曲陟々穹霄。未來春雨何虹彩。^{ルニ}但見晶霓雪後飄。^{ルニ}暖水生煙流漫漫。寒崖風

柳條條。櫻雲四月時猶早。且踏銀華謠^ニ鳳韶。

○錦帶橋

大華山人

形勝依然工。奇橋宛似虹。蜿蜒涵^ニ錦水。落照漱波紅。

○錦帶橋獨々逸

大拙 河上謹^ニ戲作 須磨

橋の大關や錦帶橋よ、むかしの番付けそのまゝで
そり橋五つを一つにつなぎ、上から見おろすにしき川
十露盤橋だと名の付くからにや、浮世の出入りをはじき出す

○同

幾田秀三

雨の錦帶蛇の目をさして、渡らにや逢はれぬ中じやもの

○題錦帶橋自畫

雲水樵人

巖頭古木翠陰々。溪水盈々不^レ受^レ塵。五月江寒新雨後。晚風廻^レ棹獲^レ魚人。

○詠錦帶橋流失擬古一首

田邊芳田岩國

錦川映帶錦帶橋。結構壯麗稱神工。五梁一條跨兩岸。彎々接雲如彩虹。又訝蛟龍臥波上。首尾倒影藍碧好。春花秋月儘勝賞。天下名橋擬國寶。詎料颶風送豪雨。狂瀾怒濤勢難禦。濟川功歿白馬躍。五龍飛騰去何處。雲收斜陽人問津。酸鼻奔湍激斷礎。偶喜觀光百選榮。猶有雌雄東西橫。應期奮勵圖再起。雄姿堂々壓錦城。

○和芳田翁弔橋靈

永田岳淵岩國

噫偉哉二百七十七年橋。錦水錦帶兩鬼工。疊嶽一川非人拔。况是朝暮放七虹。龍鱗蛟尾看天上。銀
鸞晶跳雪中好。櫻風柳烟景更賞。節會秋月當萬寶。奇構百巧勝洪雨。長計千慮勢克禦。濁流可怒
浪可躍。巖々巍然得安處。詎料昭和庚寅秋九月。風水慘烈吞虹津。奔激沒岸斷橋礎。轉瞬崩落萬
代榮。孰教五龍殘骸橫。乍見狂瀾黑雲起。曳々入玄真瑩城。天禍人災知何是。噫慘哉二百七十七年
橋。噫偉哉二百七十七年橋。吉川廣嘉謚玄真院。塔在城山麓。

錦帶橋四季詠

(五十三首)

永田岳淵岩國

年來遇季應時詠錦帶橋及城山者數十首。舊作散佚如落花委地。今掇之僅收錄加近作。蓋薰蕕一架而擲地成瓦聲耳。俱前數首傍諸子所栽錦花絢爛之中點雜草附錦帶橋史紙尾云。

春日錦帶橋

寒雁啼瞧歸路迢。梅信漸到此心焦。千峰處々看殘雪。一半春風在錦橋。

曉發南桑任一艤。流霞午日水淙々。凌雲橋上人無見。欸乃聲々下錦江。
誰家婀娜颺羅袍。傘影浮空如翠毛。橋上漫々人去後。春風一路燕飛高。

遙望飛橋兩岸回。暖風吹櫟柳絲催。可思山北春猶淺。柴上載今朝雪來。
櫻雲萬朵人如狂。楊柳青々亂岸廊。乍見橋東白波起。揮橈漕艇競龍驤。

灘聲遠去夜遲々。人斷鼈音點玉詞。知否春宵橋板上。星稀織女欲逢誰。和野口雨情民謡

怪看銀漢倒空懸。過雨虹霓度九淵。不落不流何所異。身凭雲表在霄天。同右
江樓日落柳如煙。春水東流思渺然。歡樂人歸花寂々。繽紛立錦帶橋邊。

櫻花爛漫水洋々。帽影鉢光客滿^レ梁。歲々花同人不^レ們。百年誰在一詩場。

春興懷來百戲場。少年裘馬跡蒼浪。棧風橋雨高吟子。今抱^ニ白頭^一心若^レ霜。

吟者年少學^ニ水西塾。每朝每夕往^ニ來橋上。故云。

中原逐鹿百花春。錦帶吳鈞揚^ニ馬塵^一。開落非^レ風又非^レ雨。辱榮惟有^ニ旭櫻人^一。

白采如^レ雲人似^レ櫻。橋頭繚亂幾英々。博辭宏辯虹蜺吐。假得五聯龍影橫。

錦城才子競登^レ壇。錦帶橋頭春正闌。柳絮纏紛花爛熳。一枝誰翳跨^ニ金鞍^一。

橋風柳葉雪紛々。人立^ニ櫻霞^一爭^ニ達聞^一。才子萬言花片々。由來口舌若^ニ浮雲^一。

孰得凋榮千萬票。櫻花散盡夜寥々。朦朧春月猶隨^レ我。酣戰聲殘錦帶橋。

昭和辛卯歲地方選舉被^レ行。故云。候補者立^ニ錦帶橋畔櫻花之中^ニ說^ニ觀櫻群集^ニ一切々剗々各競^ニ當選^ニ光景壯又烈。

未^レ霽櫻雲難^ニ筆描^一。吸江崖上望蕭條。遙看一峯行^ニ烟霧^一。春雨千絲錦帶橋。

春峰四繞午蒼々。霞影千家連^ニ柳塘^一。橋上紅羅誰子女。浮嵐裙屐舞^レ裳行。

初夏錦帶橋

雨亭斟^レ酒送^ニ君行^一。柳色青々春欲^レ征^一。休^レ唱渭城朝雨曲。復來來歲一千櫻。

五月雨晴江水急。西風拂^レ柳動^ニ橋瀾^一。一聲驚起那邊鳥。白線傍^レ山巡^ニ翠巒^一。

雨後城山如洗顏。青煙翠靄上天寰。橋原人散生新水。河鹿求媾鳴碧灣。

香魚季節白綸風。蒼瀨日長垂釣翁。橋上歸鴉亂天散。一竿投盡暮雲中。

新綠重々兩岸山。日斜橋上老僧還。殘櫻寺畔今存否。獨立禪庵一勺湲。

明僧獨立禪師寓紅葉谷妙福院、說錦帶架橋于吉川廣嘉、橋成、五龍飛躍傳百代、院後有獨立一勺之水、湛成潭、故云、

橋東白水迴煙墟。嫋々吟聲入夢虛。荷得清池三尺盥。青嵐五月賣金魚。

粉紅銀白戲清盤。識否幽囚成此觀。錦水流長水還碧。鏡中相忘渡梁鞍。

金魚賣翁揚聲渡橋沽錦鱗、故云。

起伏作龍還作虹。朝々欲畫一驥翁。不知他日過橋曉。躬駕虹龍一度九窿。

曙霞旭影上城山。浮景漂迷寤寐間。宿夜虹龍眠未覺。一鵬飛去獨彎々。

梅雨橋上

四山梅雨水粘天。漠々樓前柳如眠。遙聽濛々空裏屐。鬢童卒々出橋烟。

錦江淫雨水漸々。噬岸奔流遠接空。慷慨揚鞭驅河伯。蛟龍跳躍萬波中。

雨宿城山斷霧聲。那邊漁火夜三更。蜀魂頻喚橋頭客。愁殺蜀人千里情。

落盡躑躅猶有情。空山寂寥子規鳴。與誰啼血爲留客。巴蜀程遐錦帶城。

夏 日 錦 帶 橋

爽曉城山翠欲醒。涼々空磧遠沙明。雙鶴鳴起河洲上。殘夢關々前夜情。

沐後乘^レ涼橋上來。紗巾草履起徘徊。凭^レ欄老友哈々噱。月出^ニ東天^一如^ニ大盃^一。
大盃良夜酌無^レ醋。滿^レ袂涼風氣爽哉。團扇蒲葵麾^ニ皓月^一。橋邊處々履^ニ冰魂^一。
夢見翻濤拍^レ岸鳴。鱗龍飛倒曝^レ腮驚。蕭條何事眠醒後。橋畔老松涼瑟聲。

松尾坂高霆震^レ空。蟠龍喚^レ雨萬條風。橋西把^レ筆雷東去。巾上却成^ニ雲後虹^一。

秋 興 錦 帶 橋

吸江夜泊夢難^レ回。磧裏人空白露催。月下流聲向^レ誰吹。笛中秋自^ニ錦橋^一來。

遠槎爲^レ客從^ニ浮鷗^一。老大回^レ鄉歲日流。占得今宵風滿^レ室。一輪明月五橋秋。

高樓大月五龍低。如^レ帶長江貫^ニ白霓^一。目盡仲秋銀一色。流星光底鷓鴣啼。

風閣酬^レ觴論^ニ日東^一。月樓分^レ韻賦^ニ吟蟲^一。如今人去秋風老。橋景依然落照中。

蜈蚣迤渡曳^ニ流霞^一。起伏蜿蜒又似^レ蝦。應是晚鴉飛返處。炊煙和^レ雨兩三家。

青巒白水景何嘉。況是龍橋入^ニ紫霞^一。更好紅楓兩三樹。間添^ニ衰柳^一夕陽斜。

漁火愁眠景可描。寒山鐘遠水蕭々。星河夢白楓橋夜。月落烏啼錦帶橋。
白露橫江萬瀨蕭。月光千里獨逍遙。雁行雲路望爲斷。竹笛秋寒錦帶橋。

冬景錦帶橋

枯寥橋北景。戶戶鎖^二柴扉^一。寒馬嘶^二崖道^一。饑鴉啼^二石磯^一。城山惟鬱翠。錦帶獨巋巍。橋上歸僧嘯。霏霏落葉飛。

兩山相骨立。寒峽放^二長江^一。遠舸隨^レ流去。高樓傍^レ岸雙。古城傾^二落日^一。新雪壓^二枯矼^一。獨有^ニ中空截^ヲ_ノ。白龍橫^ニ紙窓^一。

早曉天冰鏡。寒風橋板霜。劍花輝^ニ旭日^一。粉璧敷^ニ雲染^一。吟客時尤好。行人却躊躇。喊聲龍背起。學黨戲翹翔。

橋亭方酒熱。霏白入^ニ紗窓^一。門外跫音絕。樓前鷗一雙。詩成朋未^レ到。瓶盡雪頻降。此是晶蜺現。昏鐘度^ニ暮江^一。

冒亂雪渡錦帶橋偶詠

亂雪斜風戢^レ傘行。彎彎人斷莫^ニ逢迎^一。母^レ言萬景都描殺。回首銀龍足後橫。

雪後晨曉錦帶橋

夜來風雪斷人行。翻レ浪潭龍寂莫レ聲。霽曉排レ窗望ニ曙白。晴川覆レ盥汲ニ藍泓。怪看水底銀龍躍。仰見空霄晶霓生。一鳥不レ鳴淨光土。恍然合レ掌立ニ瑤京。

雪曉所見

堆堆皚雪壓ニ橋梁。瓊曲銀彎翰墨場。獨恨橐中無ニ彩管。才ヲカニノ怡袖裏有ニ詩囊。群童相搏投ニ瑰玉。數犬偕顛戲似レ狂。白髮寒翁休レ筆看。是還今曉一吟章。

晚冬步橋下憶亡友

原上離離白草風。一年將レ暮馬群空。榮枯無レ序人交逝。寒暑隨レ時晷忽倥。去歲會レ朋橋下月。今生獨步跡鴻濛。古陵遙見江村外。曳レ杖低吟落日中。

寒夜聽橋上霜

閑夜繙ニ經史。勝レ思烈士名。古芳簪ニ老骨。遺凜動ニ幽情。炭滅茶鐺默。窓寒梅月生。訝聞敲レ戶客。橋

上履霜聲。

初冬見錦帶橋上天鵝軍調練一又是橋景之一奇觀也

碧落三千丈。寒鵝萬羽群。先頭司令在。啞啞率總軍。重複縱陣舞。散開橫隊翁。^{トフ}鷗鷗空震撼。突貫翼
廁^{キル}雲。合倣^{シテハ}飛機列。亂成風葉紛。巢林晨曉出。索食各相分。田圃饜充腹。晚歸溪侶欣。翹翔
終集結。返宿白衣君。弟妹隨兄袖。雛兒追母裙。西山還北嶺。翥去絕蹤芬。碧落三千丈。疎鐘唯
有聞。奇哉禽類道。目送夕陽曛。

御城山秀景

(十一首)

永田岳淵岩國

京洛嵐山涯立加茂峽。秀色稱天下。而岩陽城山凌嵐山之景。天下多無知偏說錦帶橋奇巧。名勝那在橋景而已哉。橋有此山光始成大觀之美。依賦焉。十一首逐文韻悉。

城山新綠湧成雲。舒卷氤氳氣鬱芬。人把嵐山稱第一。橋前秀色莫多聞。

橋前秀色莫多聞。唯說名橋爲榜紋。莫謂奇工非獨擅。城山勝景自相分。

城山勝景自相分。葱鬢綠鬟羅翠裙。李白呼來當浩歎。煙光草色俱氤氳。

煙光草色俱氤氳。流麗誰描韓柳文。橋上徘徊思彷彿。浮嵐浩蕩日將曛。

浮嵐浩蕩日將曛。時既霜秋絳似焚。一樹高華黃葉寺。錦楓鐘裏夢棼々。

錦楓鐘裏夢棼々。月上東天照水漬。歷盡翠光霓彩景。今宵惟有待斯君。
今宵惟有待斯君。一夜風吹銀雪紛。晶々城山瓊萬樹。畫簾投筆酒方醺。

畫簾投筆酒方醺。縹渺神騎冬將軍。旭日登岑欲姑逗。樵翁冀莫用柯斤。

樵翁冀莫用柯斤。一鳥寒聲何所云。當面玲瓏觀那處。嵐山不及此光勳。

嵐山不及此光勳。矧有名橋惹客欣。錦水洄邊天下美。錦城君子盍夫勤。

休言宿昔捧骸筋。保勝觀光業拔群。應見城山數年後。翠中紅外倍濃薰。

(御城山開發之議熟故云)

同調諧咏和次九十二首

永田岳淵岩國

先人禮讚錦帶橋者古今不齊。同巧而異曲。異曲而同巧。彩樸各交色。予偶然讀之年來所蓄故紙在篋。今採錄之。主題並吟者名依所前揭。

和賴春水觀錦帶橋

(前揭)

流烟靉靆一長條。疑是龍神入漢霄。紫氣叢邊仰天柱。紅霓散處臥梯橋。初知萬戶連甍接。又見長堤楊柳飄。清曉夢醒殘月墜。城山錦水望迢々。

和中島櫻隱軒 (同)

長灘遶廊幾千家。兩岸雲梯度白沙。四月春陽水將溫。佳嬪玉佩上青霞。
毋言一百二十間。從是龍騰尙作彎。最惜星河天未雨。媾逢長待月中山。

和菅茶山海上被阻風水 (黃葉夕村舍者)

(茶山詩舍名) (同)

黃葉夕村望不遙。滄波一帆月生潮。風來水去隨儂意。盍到防州錦帶橋。

和劉夢澤 (同)

佳春橋畔柳楊流。十里長堤夕照樓。一夜雨聲過錦水。唐山夢入越吳州。

和鹽谷老田 (同)

飛龍本是在冲霄。偶下人間錦水漂。一欲探天根月窟。巍然揚浪躍鱗高。半空遭媛還回闌。殘夜
分燈通斗柄。留逗幾年情耐想。去來雲斷眼中遙。橋靈輟恨長爲客。久護巖陽萬里橋。

同

(同)

五大洲中第一橋。水明山翠絕湘瀟。瀛西魯巧妄休誇。東海雲梯凌九霄。

和飯田周水 (同)

雷電卷風山嶽搖。蛟龍得意濟江跳。高樓輪局投棊笑。殘雨斜陽錦帶橋。

和新納時升 (同)

朝雲散處錦川東。一帶聯橋橫大空。築石何要秦帝力。懸梯不用魯般工。

廣嘉ヒニヨシ點墨神龍興。

貞矩サダノリ書

朱生彩虹。特絕邦人今古業。軒開鬼巧。到宸宮。

廣嘉者吉川廣嘉。貞矩者兒玉九郎右衛門、共爲錦帶橋創造者。

和森脇周德 (同)

蒲扇長風夕。流螢照水寒。涼顏人始識。月上玉欄干。

和渡邊南山

(前揭)

銀魚梁上躍。人去柳依稀。橋下洄流口。歸鴉暮日飛。

和山縣溥泉詠錦帶橋圖

(同)

何日此橋名五龍。皇化百代色逾濃。蒼嵐出谷千枝樹。赤照過峰萬壁山。雨峽時看五虹姿。晴沙常望五龍容。未聞詩客斯風景。浩歎忘歸擲筆鋒。

和青木錦村

(同)

一鷗飛去浪紋夕。垂釣孤翁立渡津。雲外有聲知幾尾。相看橋上擔樽人。

和吳雲題錦帶橋圖

(同)

落日移西橋轉東。千家粉壁吁楊風。晚鐘春寺烟霞遠。十里江山入月宮。

和村田清風岩國再訪

(同)

青楊繫馬景情新。四十年前羈客身。橋下賣茶翁亦老。白頭相語昔時人。

和^ニ都濃慎齋^一（同）

鳥啼明夜感如何。月滿江情詩興饒。舟放中流魚正躍。舷頭掣網惜金波。

和^ニ太田蜀山人^一（同）

逸興文名錦帶名。懸空立地共縱橫。故人如有來當代。モシ巴峽蜀山携手行。

和^ニ山田玄欽^一（同）

未曉江天放五虹。初知晴日鬼神工。川浮橋上山橋下。白水青巒寤寐中。

和^ニ山田新川^一（同）

霖餘江水勢滔々。奔激拍巖橋壘高。起誇雄梁天下麗。伏成堅礎萬年牢。神機構木何夫巧。鬼膽呼龍獨自豪。雨霽長霓生脚底。身回虹背且翔翶。

同^一（同）

嘗遊屢邑步清朝。百里江山秋色饒。一水長流錦延帶。五梁高架帶翻橋。樞村厓上孤牛臥。楓寺門

邊寸馬搖。恰好草隄烟絕處。牧歌間斷獨聞簫。

和^五山田新川賦^二錦川人形石^一 (前揭)

這是清流一小蟲。橋靈延^レ儂就^ニ斯躬^一。彩砂粘綴爲^ニ衣帶^一。紫白黃紅色不^レ同。冠袂袖裙容悉具。袞裳繡袴
伎穿^レ工。奇哉宛似^レ成^ニ人像^一。睿智可^レ驚昆類功。聞說江龍戲造^レ室。招^ニ來七福^一作^ニ神宮^一。夷須大黑莞如
笑。天女辨才含^レ媚豐。振^レ槌投^レ竿瀨搖^レ浪。吹^レ簫演^レ舞浪生^レ風。巖陽自^レ古多^ニ珍話。今我收^レ之置^ニ龕
中。夜半有^レ時笙鼓起。夢入^ニ窠樓^一無^ニ日窮^一。

和^三王治本詠^二人形石^一 (同)

衣冠束帶與^レ人同。織^レ石繆^レ苔藏^ニ厥躬^一。魚鼈無^レ侵此仙窟。千年不^レ老在^ニ龍宮^一。
奇哉眇小克成^レ躬。七彩裝^レ衣造化工。役^ニ人生何困約。不^レ縫不^レ織此昆蟲。

和^三清國詩客張秋琴賦^二錦帶橋洪水^一 (同)

汨々滔々吞^ニ兩岸。前山後嶺雨如^レ灌。漂牛出沒任^ニ波奔^一。流屋浮沈棟欲^レ斷。風歇霧深空未^レ分。水騰噴
薄驅^ニ雷軍^一。轟々動^レ地激跳^レ壘。散作^ニ橋天萬朵雲。顧望低回行路難。市人傾^レ傘立^ニ厓端^一。雨師何故令^ニ

吾苦。每遇^ニ秋霖^ニ此意刊^ム。莫レ說名橋獨絕雄。乾坤嘯噭凌^ニ霄穹^ニ。橫^レ空落々徇^ニ狂颶^ニ。峙^レ水巖々叱^ニ怒洪^ニ。溢漲拍^レ天彼何者。飈颻捲^レ地是心沖。若夫翥勃龍興日。幻轉化爲^ニ七彩虹。構^レ木成^レ梁技巧周。深礎疊^レ石拔^ニ亞流^ニ。嶄然頭角冠^ニ今代^ニ。孰又神機爭^ニ匹儔^ニ。創建將^レ垂^ニ三百歲^ニ。昭和聖世勢隆々。縱雖^ニ川怒川非^ル吉^ニ。鴻業長流吉川侯。

和^ニ綿引東海空過^ニ錦帶橋^一 (同)

橋頭有^レ酒美姬招^ム。况又清涼興味饒^ム。短褐貧囊何用^レ辭^ム。龍兒空過五龍橋[。]

和^ニ熊谷玄旦錦帶橋賞詠^一 (同)

什麼長梁萬里懸^ム。黃昏落日入^ニ雲煙^ニ。朦朧似^レ夢星河上[。]恍惚堪^レ思廣府邊[。]詩客無^レ翎弄^ニ明月^ニ。騷人投筆仰^ニ虹天[。]驚看身在^ニ龍橋背[。]老鶴沈吟濟^ニ錦川[。]

和^ニ一元和尚殘夜發^ニ今津^一溯^中錦帶橋邊^上 (同)

今津曉發沂^レ流行^ム。白露橫^レ江殘月清^ム。錦屏城山烟漸散[。]吸淵兒瀨^{コ^ラライ}水相迎[。]凌雲橋上雞人走[。]荒木曾峰社鼓鳴[。]關戶多因廻路盡[。]稱名寺畔硯經聲[。]

和^二井上圓了錦帶橋絕讚^一 (同)

人稱^二三景^一獨躬驕。知否周防錦帶橋。嚴島盡邊生^二蜃氣^一。五虹七彩架^二雲霄^一。

和^二前田慧雲^一 (同)

初步^二名橋^一漫往還。吟情頻動試^二詩刪^一。青々斜過楊村雨。忘^レ句遙看沐後山。

和^二島地默雷^一 (同)

龍騰霓架賞^二奇工^一。萍跡無^レ端過^二錦江^一。紅葉風搖日將^レ暮。斜橋一半紫雲中。

四時秀色秋時態。月夜憑^レ欄尤可^レ愛。鴻雁南飛霜滿^レ天。人躡^二白露^一行^二橋背^一。

和^二智恩院大僧正松翁^一 (同)

山河襟帶古城臺。俯瞰觀場巾上開。未^レ上伏龍泥^二晚靄^一。飛虹却跨^二麓風^一來。

和^二玉乃九華^一 (同)

錦城秋色在^二楓枝^一。橋畔携^レ瓢望多時。落日千峰紅欲^レ炎。呦々吟斷識爲^レ誰。

和有馬橙村

(同)

一道昭風柳色新。更迎歌客遇櫻辰。鬼工詩玉囊中景。萬里喧傳幾百春。

和南方一枝

(同)

鷄鳴破曉霧烟消。霜露猶寒寤寐橋。磧上孤鶴頻喚伴。飛來一白下青霄。
日落錦川涼色迢。江風一陣炎心消。鼓歌何處聞盆踊。人倚欄杆滿月橋。

和玉乃九華

(同)

此是花流水不流。櫻春萬朵滿瀾頭。錦城橋客能知否。嵐雨爲君暫逗留。
秋老還無伴翠蛾。孤鰣不聽雪兒歌。巖陽李密抱琴笑。座有一瓠母漫過。
ナガウツテ
玉乃九華一生環、蓋中鳥櫻軒携美妓來歟。

和劉云高

(同)

曲々彎々蹴壘舒。五龍跳躍有猶餘。深睿人寐潭生浪。有物立鱗行大虛。

和鹽田隨齋題錦帶橋圖（同）

鶯鳴燕舞麗陽時。楊柳青々萬縷垂。花簾風飄紛似雪。琴樓日暖瑟如絲。紅裙婉女過橋上。白馬驕兒吸彼漪。誰教富人專此景。貧儒圖外滿觀嬉。

和岡鹿門錦帶橋歌並引（同）

誰比天滿興吾妻。錦橋超越懸大霓。築礎構梁無物較。勿謂機工自歐西。拉來天巧一期獨絕。秘訣考案出別裁。一朝洪水澗澎湃。四邊草木沒危崖。不落不流三百歲。况奇態不可端倪。雲驥龍變生壘底。雨晴霓化發流澌。啼禽翼々飛日下。吟人級々上月梯。俯仰彎々力相拱。高低曲々勢相排。龍骨虹背拒車馬。人御青霞瞰塵街。樓閣蟹舍指顧裏。蕞爾葱嶺如几臺。白川一派注蒼海。綠葢千疊敷錦涯。嘗賦日本三橋詠。今尋古城筆硯擢。錦帶橋是天下景。獨見明賢創始才。天滿吾妻非所及。又凌歐風新奇開。方今橋梁學日進。規畫合理噫偉哉。君不見周防錦帶橋。後覺先賢不可階。

和靜石（同）

桃花含露幾枝垂。載雪寒槎下柳堤。想到龍橋前夜雨。源頭十里玉林溪。

和山縣含芳(同)

春嶽崔嵬放_二錦川_一。飛龍高向_二日天_一懸。青嵐白霧吹_レ衣過。一半櫻雲入_二柳烟_一。

和鹽谷草溪(同)

訝看紅紫五聯虹。白羽一翩南下鴻。最妙半峰過雨後。夏涼風裏跨橋隆。

和上田西山(同)

古塚苔蒸落葉風。城山深處弔_二英雄_一。香煙時斷無_二人訪_一。但有_二百年桂樹豐_一。

和竹雨(同)

細雨如_レ絲草似_レ氈。柳隄楓葉一枝妍。且看烟霧濛々處。隱現蜈橋渡_二暮川_一。

和橫山健堂(同)

錦帶橋國風景記。繡文紈字八方描。巖陽紙價爲_レ君貴。萬世長傳第一橋。

往年橫山健堂爲_ニ岩國町_一著_ニ錦帶橋國風景記一卷_一。予亦關_ニ其事_一。故云。

和大島陽亭（同）

寒山落木石棱々。枯磧水低蹊薄冰。滿目蕭條天欲雪。歸鴉橋畔爨烟昇。

和足立北鷗（同）

霓耶錦帶五條連。高蹴晚空截一川。新月宵來周兩腋。殘星曉逗挂双肩。龍乎夜半鱗翻水。未雨雲興見返天。忽爾夢醒螢火滅。涼風直自漢河傳。

和清國人王治本賦錦帶橋長古（同）

天下名橋天下水。水疊滄波橋玉趾。橋高百尺幾曲盤。水長繁洄十數里。孰成奇巧吉川侯。開闢以來屬創始。或縱虹霓景有餘。或騰蛟龍尙邈迤。彎下無脚何浮梁。洞中有流誰廻廊。湍瀨於時雲霧起。人駕長風天逾高。中梁過雨分首尾。兩端夕照橋影明。宜矣橋名錦帶擬。川腹東帶錦流前。彩縫繞緣欄映繡。紅霞青靄梯成紋。况是橋畔錦花綺。錦傘錦囊人如梭。錦川四方洄村市。穀倉茶鑪依此流。錦心繡腸產多士。有故文雄絕西東。吾亦同好羨久矣。偶提雅筆到防州。振衣長橋四環視。山光紫明鬱蒼々。水色湛深碧瀰々。曾聞五龍象橋云。始見連躍其形似。虹橋於我傳名長。斯橋

天工歎不_レ止。吟情滂沸意如_レ狂。形影共_レ憩危欄倚。吾是唐山風來翁。爾是錦城鎮守子。羈客題_レ柱存_ニ
遊蹤_一。飄然一去孤雁啼_ク。嗚呼後世星物移。錦川永流橋長時_{テヨ}。(王治本來岩國屬明治十七八年之交
瓣髮長身散歩街衢予實見從其後)

和_四山田青門送_ニ齋藤致卿歸_ニ伊勢_一 (同)

伊勢岡高太古遙。神都送_レ返望蕭寥。天孫日向降臨路。須_レ記今懸錦帶橋。

太古瓊杵尊奉_ニ天照大神之勅命_一降_ニ臨筑紫日向高千穗峯_一陸路經_ニ過岩國山_一聖迹今猶存。故岩國山別稱_ニ伊勢ケ岡。

和_ニ山田青門錦帶橋月夜_一 (同)

明月前川流遶_レ城。天寒鴻雁兩三聲。橋頭人斷魚飛白。一棹銀波載_レ酒行。

和_ニ山田青門書_ニ夏日小景圖_一 (同)

雨餘垂釣老。橋影映_ニ淪波_一。睡鷁鑿_レ殮踞。巖頭翠一蓑。

和_ニ山田青門詠天保癸丑錦帶橋修繕中之災事_一 (前揭)

戒_ニ現時再建用_レ意。爲_ニ七律。

春雨情調俱_ニ錦橋_一。何爲暴怒破_ニ衾宵_一。架_レ虹梯木渾烟散_一。涉_レ漢梁材悉霧消_一。斤斧清音聲乍絕_一。梓人含

レ耻氣魂銷。如今再建忙ニ工事。天保舊聞非ニ事遙。

和江木鰐水錦帶橋歌（同）

客來始過レ橋。雲中人出沒。截レ空百丈高。跨レ地無ニ顛蹠。殘雨疑ニ霓虹。五連不ニ相割。夜深訝ニ潭龍。飛跳橫ニ渟滴。首尾相曳搖。行レ背恰如レ活。恍惚立ニ星下。奇巧齊捲レ舌。觀賞數日留。一望天地豁。更喜好學士。青衿耽ニ文訣。星光錦橋外。別有ニ絃誦列。渙發成ニ龍橋。注流爲ニ滌溢。山陽一奇觀。他潘多莫レ西。鑿鑿彼底根。巖々彼臺骨。固レ礎圯始成。百世不動鐵。以可レ備ニ世用。豈又說ニ奇絕。堅石爲ニ根柢。士風實守レ一。深根萬代固。不レ關架レ空出。四方山水美。翠麗不レ勝レ筆。景出ニ秀靈士。橋映ニ象奇傑。此鄉世師表。低徊望不レ卒。更遊ニ月雪奇。浩歎奇曷絕。

○錦帶橋

田邊爲一 岩國

錦川いつゝの橋のいつはあれと志ろ山しろくさくらさくころ
わたりゆく我身にそひて錦川月もいつゝの橋をこえきぬ
錦川わたる反橋つき／＼にさきゆく人のみえかくれする

にしき川鮎つる人のかけをみて志はしたちよる橋のおばしま
錦川なみくならぬ橋は世にかけかへのなき寶なりけり

○錦川抄

桃喫くや牛動かざる土手の晝
青き踏む青春の日の道なりし
みどり透く岩苔に鮎光りをり
綠蔭や一瀑の水涸れてあり
尺蠖や木材に墨はじき打つ
曼珠沙華名橋こゝにありとのみ
流木の光るときあり秋出水
行き行けば奥ある谷に鶴啼けり
冬の日の傾く渡わたし舟一人乗る
日雀来て落葉林のはなやきぬ

村井一露同

○和玉乃九華錦帶橋引贈中島櫻軒

(前揭)

永田岳淵

飜飛截レ空景何奇。彎々浮レ虛脚無レ支。霓耶非レ霓工倚レ誰。訝見畢竟非ニ人爲。朝雲未レ披五龍飛。半宵月出人登レ梯。賢侯創才世皆知。依レ何成レ之今尙疑。霖雨濫流柴梁危。先君天器百巧施。疊レ石構レ木制ニ漫瀰。一斧乍開ニ天啓一來。經營力作凌ニ般倕。爾來庶民凭ニ君慈。星霜二百餘年移。世界文化建ニ銘碑。莫レ言錦帶橋獨希。四面山水景殊宜。春花秋月又雪時。浩々歌客耽ニ韻機。君今來遊一簡提。兩々相携步ニ錦沂。旅塵洗去立ニ岸陲。屬レ君椽毫爲ニ名題。落日西山秋將レ歸。何時復分ニ錦秋暉。君今都下文章魁。應レ有ニ毫端吐ニ彩霓。

和南部五竹錦帶橋歌悼其刑死自鑑

(同)

古今錦橋匹也無。觀光問風入ニ畫圖。雅俗曳レ杖人不レ絕。日本三橋以レ奇呼。創建二百餘年色。霓龍依レ舊互追趨。少年去レ國落ニ塵裏。老來歸レ國眠ニ故郛。客路山川幾顛躡。萍迹風霜苦鏤レ膚。憶昔帝京破窓夕。貧學憤淚衣襟濡。慘憺力行耐ニ甘受。頂天絕地立ニ寰區。如今功名茲一擲。再遇ニ山光水色殊。童時追レ魚清瀨處。滄變爲ニ淵映ニ白鬚。憑レ欄茫然思ニ今昔。月高山小忘ニ百須。少年風雪老爲レ趣。眼前晚景教ニ人娛。嗚呼難レ忘故鄉景。柳罩ニ水樓ニ煙模糊。况今涼秋好時節。一道金波月跳レ珠。此時朗吟橋上過。

恍訝乘^レ龍遊^ニ太虛。始覺太虛人影隔。五竹揮^レ翰下^ニ月途。呵々笑^ニ予還不^レ早。慷慨論^レ時侃々如。五竹殉^レ義遠^ニ仙路。今夕偶會也奇夫。忽焉夢消橋上客。遺韻杳^ニ何歌乎。錦帶橋歌豈無^レ意。長恨今傳此詠徒。

和^ト東澤瀉步^ニ錦帶橋上^ニ憶^{メテ}吉川有恪公^上 (同)

天時人事附^ニ江流。滄海桑田星物幽。英明有恪公鎮^レ此。民俗美興^ニ山水美。質實剛健戒^ニ錦裳。淬礪常鑑興亡史。獎勵稼穡^ニ祭昊天。研^ニ修文武^ニ克^ニ百難。藩雖^ニ小邦^ニ無^レ可^レ比。介然卓立列侯間。德幕忽倒世一轉。明治政府新^ニ法典。天皇之令儼如^レ山。立國精神春尚淺。却見風塵臣闕爭。歐粕米糟投^ニ民情。未^レ聞孔孟萬古響。口舌君子好^ニ辯明。銜^レ俠政客競^ニ曹馬。青樓電燭似^ニ煜火。鄭聲如^レ沸醉^ニ爛酒。杯盤狼藉亂^ニ鱣鮓。絃妓喃^ニ媚^ニ翠眉。一鄉蕩然俗堪^レ思。誰又擊^レ筑誦^ニ大節。庠序門朽任^ニ蠹擇。名教凜風茲幾死。隔^レ時廿春送^ニ晚暑。橋上懷^レ往淚如^レ雨。九原漠々不可^レ起。嗚乎九原不可^レ起。

和^ト見山一如^一 (同)

也無題^レ柱客。惟有^ニ落暉輝。百歲孤翁看。行雲追^レ鶴飛。

殘老衰翁好^ニ鶴遊。不^レ期腰貢上^ニ揚州。何時際會風雲日。龍背虹乘問^ニ斗牛。

堪^レ駭名鄉失^ニ錦標^一。殘礎荒廢亂^ニ花朝^一。龍騰霓躍知何日。江畔呻吟立^ニ斷橋^一。

和^ニ大華山人^一 (同)

孰就^ニ神來巧^一。長空縱^ニ五虹^一。遲々春日暮。惟見落霞紅。

和^ニ雲水詠人題^ニ錦帶橋自畫^一 (同)

重々翠綠吸江陰。巖壁停^レ舟避^ニ世塵^一。却見驢肥新雨後。機心頻動釣魚人。

和^ニ玉乃五龍^一 (同)

快風奔馬颺^ニ波浪^一。夢覺殘虹凌^ニ曉霽^一。日上三竿山漸翠。長川映出五龍橋。

和^ニ佐武奚疑^一 (同)

斜雨山頭看^ニ晚虹^一。行人浮漾彩雲中。妙奇元有^ニ神來手^一。勝^レ誇先君奪^ニ鬼工^一。

和^ニ鹽谷老田詠^ニ人形石^一 (同)

微蟲窠窟所_ニ何意_一。形像宛然不語人。砂粒綴_レ衣誇_ニ裝美_一。菌苔滿_レ食飽_ニ香唇_一。或如_ニ桂袴城中媛_一。或似_ニ帶冠藩府臣_一。想見往來橋上影。水中懸倒擬_{シテス}_ニ同親_一。

和 東 澤 活

霏々柳絮亂_ニ春風_一。錦水瀾々映_ニ萬紅_一。拂得青嵐千里景。五龍騰出半空中。
淡靄蒼烟又落霞。間看晴嵐五龍斜。孰言風物不堪_レ說。更有_ニ櫻楓四季誇_一。

和 高 木 樂 水

巖陽春色一天晴。錦水溶溶鳧影清。雨後城山翠如_レ滴。橋前併得白雲櫻。

和 巨 巍齋 主人 吉 柯 弘毅宿_ニ錦帶橋東_一

橋頭高喙幾雙樓。錦帶斜橫錦水流。更見城山松栢翠。長江萬碧白蘆洲。

和 圓 覺 清 蔭

(錄倉圓覺寺住職、周防玖珂
君祐代村出身、文政乙酉秋)

殘日橋邊倦_ニ釣船_一。涼風漸到五虹天。朝來芳餌魚多少。歸棹漁歌入_ニ暮烟_一。

和下鹽田隨齋爲二宮錦水題錦帶橋雪月圖上

飄飄羽化太虛風。初識尺身駕_二白虹。萬里登降今夜羿。斷橋空待廣寒宮。

和韓國張燕詠錦帶橋

去歲今宵漢水亭。今年此日錦橋汀。紺流清瀨延_二長帶_一。翠嶂蒼嵐繞_二曲屏_一。橋上吟人明月白。津頭浣女柳楊青。萍蓬去_レ國三巴遠。歸雁聲聲一睡醒。

和門田杏塢

江城月白錦波恬。一棹輕風載_二玉蟾_一。霜滿_二銀天_一夜如_レ水。篷窓拂去露簾簾。

和熊谷翠軒（四首）

一、錦帶橋秋夕

月色玲瓏幾寺巒。遠鐘鳴罷夜方闌。白衣銀粉光如_レ灑。心在_二天心_一人倚_レ欄。

二、錦帶橋春景

櫻閣柳亭風颯然。飛花散葉錦橋天。模糊翠簾開來處。鶯語聲中春一川。

三、陪沖原東兩將軍錦川舟遊

一葉扁船下錦流。橋邊楊柳暮烟收。將軍語戰風翻艤。翠老論詩波動舟。月上東天挂龕塔。星移西嶺沒虹頭。大聲重蓋忘塵世。皤髮酡顏有患不。

四、歸鄉偶作

客程回首夢迢迢。俗世紛華似塵飈。汙垢浣去辭炎郭。涼風歸臥五龍橋。松菊猶存梅骨老。三逕雖幽是吾圃。脫却冠履寬輕裝。投足長廊悠天地。四山積翠氣蒼蒼。一川湛水想泱泱。半生苦樂乍消散。吟噭徵酒誰又妨。梢頭閑鳥先新客。牆外耄犬慕舊主。館跡綠高十丈松。院趾苔蒸一勺石。紅葉溪枯絕鱗腥。護館神鬱杉風馨。東瞰彎彎五帶古。南望段段兩崖青。昔者人去帙留卷。今夕月來光滿幔。門外有聲朋携蔬。厨中無音酒荐沸。鄉黨對酌不知眠。月移花影在欄邊。眼中之人皆皤髮。

白金鞍語少年。

和^四梁川星巖送^三二宮錦水歸^二周防^一 (前揭)

霓氣龍才文武侯。召書郵到促^ニ歸轉^一。三年積^レ學俱^レ燈喜。一夕別離分^レ袂愁。黃葉滿山風路後。堪^レ思錦水櫂歌舟。玉池吟社星稀夜。錦帶橋頭明月秋。

和^二稻田九臯^一 (同)

明開^レ牖仰^ニ雲途^一。莫^レ謂斯橋海內無。寰宇巍然拔^ニ頭角^一。樓前收得一連圖。

和^一橋本關雪游^ニ錦帶橋^一 (同)

奇巧萬邦便不^レ同。獨看皇國鬼才工。如令^{モシ}畫伯描^ニ關雪^一。神采當^レ橫^ニ貫碧空^一。
錦水模糊春日閑。誰家畫客對^ニ青山^一。烟霞一幅微茫處。人立^ニ飛橋浮漾間^一。

和^一天山居步^ニ吉香公園^一 (同)

錦雲閣外石橋斜。孤竹藩籬處士家。雪眉闊翁倚^レ門語。櫻春千樹白雲花。
(錦雲閣在^ニ)

和大草小雲題自畫錦帶橋（同）

畫景最佳銀雪晨。夏螢秋月又櫻春。風光四季宜丹管。水墨隨心不累人。

和倉重雪臘錦帶橋秋月（同）

歸鴉散盡暮烟收。錦帶橋頭北雁秋。月上東天涼萬斛。誰懷過客百年憂。

和上林岡陽詠錦帶橋及其環境（同）

衡山歸處石苔滋。綠雨吹過聽子規。寂寞空堂人不見。誰祇護館古神祠。登城山
月下隨流下五橋。紅燈兩岸任風搖。銀鱗驚起清潭上。投網千波玉兔跳。錦川舟遊
身駕五龍行半天。孰成奇構思端然。三橋日本言幾故。世界超群萬萬年。錦帶橋

和中村不摘錦帶橋四首（同）

龍橋雨霽映清眸。沐後江山景欲流。兩岸楓林紅萬樹。吟聲一棹錦城秋。錦帶橋秋色
濁浪拍天浸錦川。虹龍失影望茫然。在時漫觀等閑過。鴻業初知三百年。錦帶橋流失

災殃何慘澹。悵歎俯流川。四顧纍纍石。荒亡送暮年。同上庚寅歲暮

六萬鄉民拂淚痕。蹶然總起熱論喧。廳看龍態虹霓觀。橋壽千年傳子孫。錦帶橋起工式

和栗栖坦堂（同）

水明山紫四時嬌。更見奇觀錦帶橋。龍臥虹飛孰成巧。東西今古萬邦超。

和田中翠南錦帶橋流失

颶風暴雨水浸天。宏蹟忽空三百年。再建圖成又何意。永存文化祖名傳。

[齒謠]

浮

橋

四月

シテ 橋の靈前里人
ワキ 吉備津の宮の神主
ワキツレ 從者二人

著作者 春田東二郎正鞆

岩國

觀世流謠本

「東風ふく風に船出して。東風ふく風に船出して。いざ名所を尋ねん。」これは備中の國吉備津の宮の

神主かみぬしにて候。われ未だ錦帶橋を見ずゆ程に。此春思ひ立ち岩國へと志しゆ。へ霞たつ。嶋山かげをはるぐと。嶋山かげをはるぐと。風のまにく眞帆片帆。日數かさねて周防なる。麻里布の浦に船はてゝ。徒步かちよりゆけば程もなく。錦川にも着きにけり。錦川にも着きにけり。

へ急ぎゆ程に。これは早や錦帶橋の邊はざとに着きてゆ。へ實々じじに聞きしに勝りたる錦の橋のながめかな。頃しも彌生の始めなれば。岸の柳の糸たれて。永き眺もいひしらぬ。木の下蔭にたゞみて。終日橋をながめん。古いにしへを。忍ぶ心の先達さきたち。忍ぶ心の先達さきたち。神代にありと聞へたる。橋の心に浮橋の。神代の橋やかゝりけん。橋柱なき岩國の。橋とくり返しくり返し。聲たからかに詠じけり。聲たからかに詠じけり。神代の橋やかゝりけん。橋柱なき岩國の。橋とくり返しくり返し。聲たからかに詠じけり。のうく旅人たびとに申へき事のゆ。こなたの事にてゆか何事にてゆぞ。只今の御詠歌今一應御おもて聞かせゆへ。安き間の事にて候。へ千早振はやぶる神代の橋やかゝりけん橋柱なき岩國の橋。へ千早ふる神代の橋やかゝりけん橋柱なき岩國の橋。へあら面白おもしろの御歌や。へ住みなれし。里は世を経てさざれ石。里は世を経てさざれ石の。巖いはなとなりし岩國山。末は絶せぬ流れ汲む。錦の川に遊ぶ龜も。君萬歳と祝ふらん。君萬歳といはふらん。へいかに尉殿。御身は此里人にてましますか。へさんゆ此里人にてゆ。へさらば此橋の事くわしく御物語りゆへ。へ語つて聞せ申そふするにてゆ。へ夫橋それといつぱ一千早振神代にて。諸冊さくみ二柱の神たゞせ給ひて。さか鉢を下し給ひし浮き橋より始まり。木梁もくりやう石梁せきりょう、舟梁しゅりやうあり。水上すゑじやうを安穩あんのんに通ひ。げに萬民の世を渡る。ゆき來つどはぬ功いさをあり。

名も動きなき岩國の。峨々たる山の麓なる。鴻流に渡せる橋の橋ばしら。浪に堪へじと柱なき。
 反橋をこそ。懸られたれ。岸よりきしに三丁餘。高きこと八間にあまりたり。橋のかたちを見給へや。
 五つならべし梓弓。春の霞に浮かび出で。龍のかたちを現せり。五月雨はるゝ大空に。虹をなせるは。
 武夷君の虹橋李太白の綵虹ともいひつべし。川霧深き夕には。魯般が雲の梯も。かくやと思ひあや
 しまる。雪降り渡る朝ぼらけ。たゞ白妙の帶なれば。錦の名をもうづむべし。四季折々の詠めには。
 詩歌連俳さまざまの。數をつくしき中にしも。今浮橋の御詠め。又もたぐひはあらきその。神の力や末
 の世に。永き榮へをますの屋と。言葉の花は幾千代も。盛り久しく匂ふなり。

かかる拙き言の葉を。我が身にうけて愛で給ふは。如何なる人にてあるやらん。くわしく名乗りおはしませ。

今は何をかつゝむべき。皆人々に岩國の。錦の橋の精靈なり。

御身はるゝ尋ね来て。神代の橋の浮き橋と、稱へ給へる嬉しさに。かくて現れ來りたり。かさねて御
 禮申さんと。夕風渡る柳かげ。行方知れずなりにけり。行方知れずなりにけり。

故郷へ。かざる錦の旅衣。かざる錦の旅衣。身にきて歸る家づとに。いとゞ謂れゆかしくて。猶も
 木蔭にたゞすめり。猶も木蔭にたゞすめり。

あら面白の折からやな。柳はみどり紅の。花のいろ／＼こきませて。實も錦の一河の流れ。他生の縁

ある旅人に。向顔かうがんをなす嬉しさよ。ふしぎやな川波さかまく水の面おもより。頭に五つの龍を頂き。錦の衣にしきの帶たすき。さも神々かみしく見へ給ふは。誠や先に聞えつる。橋の御靈みたまにてましますか。

天地を動かし鬼神きじんを感ぜしむ言の葉は。實有じつゆうがたき大和歌やまとうたの。いさをぞ今は知られける。

風來らざれば樹もうごかず。動きはせじと岩國の。橋の心も敷島の大和舞いざやかなでん。浮橋のうきたつ橋の心かな。浮きたつ橋の心かな。そもそもころは。延寶元年。我君の御恵み。萬民の苦惱を。助け給はんと。あまたの工たくみに命じつゝ。かけ渡したる五反いづそりの。いつか忘れん幾千世に。名を現はして貴賤都鄙みだり。めづるも君の。めぐみなり。

又夕陽に映じたる。又夕陽にゑいじたる。岩國山のもみぢ葉の。影の錦をそのまゝに。錦の川と名附けたり。その川にしも帶なせば。やがてぞ橋の名にしおふ。よく／＼ながめ／＼おはしませ。幾としの春を経て。今逢いがたき言の葉の。小忌をみの衣に感涙の。かゝるいはひの舞の袖。かざして仰けば錦の橋。うつむく川の川水に。ざんぶと陰れ入りにけり。水そこ深く入りにけり。(終)

錦帶橋復興昭和二十八年一月十五日渡初式を祝ひて

○祝錦帶橋完工渡初式

村本米槌 岩國

世にも知れたる岩國の。錦帶橋は完工し。四つの土臺をくみたてて。五つの橋をかけ渡し。昔をかえぬ其奇橋。錦川面にうつす影。つきぬ流れにいつまでも。わが岩國の誇りなり。けふ成人の吉日を、先は市長の導きに。これにつづいて神官の。いく久しきを祈りつつ。揃ひ目出度し三夫婦の。寶の橋の渡りそめ。皆喜びのこの集い。國をあけての祝なり。あうて嬉しき渡初式。(一月十五日)

○同

鹽井亮吉 岩國

大方の援助でこゝに五つ橋の再建成りて千代にゆるがじ

錦帶橋成りてとゝのふ千代の春

○名橋を讃える歌

岩國小學校生徒合唱

一、流れも清き岩國の 川の錦を名に負いて

たくみのほまれ昔より

四海に高し錦帶橋

二、五連の橋のうねうねと

空をかざりて虹のごと

流れあやなす水の面に

浮ぶ姿の美しや

三、春は櫻の花ごろも

秋は紅葉の唐にしき

かざすよそほひさながらに

その名もゆかし錦帶橋

○錦 帯 橋 魂

(落橋に際して)

津 田 彌 吉 市長

昭和二十五年九月十四日

颶風キジヤ來り襲う、

愁色、橋畔に満つ。

國寶の工築、文化の粹。

偉觀誇あり二百七十有八年。

濠流一過　　高樓を呑む。

ああ、父祖の遺業、
一瞬にして潰ゆ。

仰けば、翠峯、
森嚴、城山の姿。
俯せば、碧水、
清澄、錦川の流。

橋臺壊れて、

橋靈、益々健かなり。
梁板流れ去つて、
梁魂、彌々旺んなり。

建立の大業、

偉業の前途、百難

萬艱横はる。

斷じて吾等、

再建の道を進まむ。

○錦帶橋の再建を祝して

七十七歳 熊谷隆子 岩國

一、世に聞えたる

名橋も

颶風一過

すさまじき

奔馬の流に

さらわれて

われらが袖を

しほりいる

二、時しも日本

獨立の

春をむかへて

建てなおり

からんころんの

渡り初め

笑顔あふるる

錦帶橋

三、昔にまさる

そのすがた

櫻の花も

紅葉ばも

清き川瀬に

かげうけて

千代にはこらん

此橋を

○錦帶橋渡り初めを祝して

錦帶橋 渡り 初めして 寒梅に

嚴かに 吾もあり 雪の渡り 初め

渡初めすましめでたき 小豆粥

渡初めの橋にさん／＼雪の日が
火に冬の山震ふ

雪の亂舞 錦帶橋の渡り初め

庄司岐峰 岩國

福井断魚 岩國

河野花笑 岩國

鹽田潮風 岩國

渡初めの歡喜凍雲にひびく

福坂禽江岩國

風花に歡喜の旗を振りに出る
名橋を持ちし伴さざめ雪
折からぬ雪に錦帶橋渡る

中村圭月岩國

市長切るテープが吹雪く渡初め
渡初の老の衣紅し吹雪かるる

沖野彌生女岩國

凍雲の應ふる花火打ちつづけ
北風の橋ひしめき合ふて渡りけり

踏み鳴らす橋に風花遊ぶなり

玉田空々子岩國

まこと美しくかかりし橋と雪に立つ
橋完成祝し凍て川どよめき來

風花もうれしみ舞ふに橋渡る
錦帶橋成るどことなく春めき來

高橋金窗岩國

錦帶橋の雪しみくと踏むもよし
渡り初めよりつづくどよめき雪に昏れ

○祝錦帶橋再建落成

八十一歳 芳田 田邊爲一 岩國

奇工鞅掌正三年。再見玉虹高架天。翁嫗先躋若鵠鶴。錦江千載瑞雲鮮。
人工莫是奪天工。恍訝五龍橫半空。高檻層梯作鱗角。擎雲影落錦江中。
長槍大戟過橋頭。彩仗整齊祥色浮。試涉喜看遵古格。遺功紹復耀千秋。
煙火一聲天外過。五虹宛轉飲清河。肩摩轂擊如雲聚。萬歲歡呼旗似波。

○錦帶橋の再建を祝ひて

八十一歳 田邊爲一

錦川橋あらたなりそらとびしいつゝの龍のいつかへりけむ

ふむからにしまる力のすゑかたく千代もゆるがじ柱なき橋

わが國のほかにあらめや木たくみの虹なす橋を空にあふくは
城山のしろにかへてものこしたる橋こそよゝのたからなりけれ
槍たてゝはさみ箱おひて橋の上をねりてゆくみゆ錦繪のごと

○詠五龍橋

弘津拙三岩國

未ニ雲龍ニ兮未ニ晴虹。影蘸ニ長江ニ連ニ碧空ニ。靈巧豈^{クダ}翅冠ニ海宇ニ。永傳濟世度生功。

○和弘津拙三詠五龍橋

永田岳淵

或徴晴龍或雨虹。咏歎投筆仰ニ長空ニ。人爲天巧知何是。永記廣嘉濟世功。

○錦川春望

栖霞仙史 山田行藏

岩國舊姓南部

山青水碧沙如雪。日暖風輕柳如煙。錦帶橋邊芳草麗。五龍祠畔百花鮮。

○和栖霞仙史山田行藏詠錦川春望

永田岳淵

春望晴日櫻如雪。醉客參差入柳煙。遙見橋邊彩霞外。娘群伍伍翠娥鮮。

大島隼人君所藏默雷師揮毫書幅詩句、點有所異揭左參考

水色山光呈美態。楓紅松翠宜游愛。錦川別有錦橋橫。人步五龍眠臥背。

○錦帶橋

熊谷翠軒岩國

周東一角是錦城。隨處植遍萬株櫻。古來靈地生靈異。棲將白蛇萬人驚。况又君公創意妙。贏得天下第一名。日落雲散岩山碧。兩岸樓樓照眼明。誰知白蛇化龍了。五橋蜿蜒半空橫。振衣直掃星宿去。恍聞闔闔天樂聲。

○和熊谷翠軒詠錦帶橋

永田岳淵

四月巖陽花滿城。萬來人入白雲櫻。淡靄山閑鳴鶯靜。錦碧波動浴鷗驚。嘯噭可吟丹可畫。甫知勝鄉

第一名。更見跳龍疊レ瀾起。霞中烟外橋影明。傳說潭神化成觀。奇哉玄真計縱橫。彎彎飛度櫻雲上。半空仰聽春燕聲。

○觀錦帶橋渡初之式有感

熊谷翠軒 岩國

暴雨如レ注挾ニ暴風一。濁水滔滔劈ニ石矼一。彼蒼苦レ人何其慘。流失橋梁道不通。市民奮起謀ニ再建一。醵レ資億萬卽竣レ功。世間何人不ニ歡喜一。仰看矯矯躍ニ五龍一。時哉癸巳正月半。一發銃聲轟ニ曉空一。渡橋之式從此始。儀法一一倣ニ古風一。峩冠前導高官士。紅袍後從老嫗翁。幾百賓客踵相接。衛士叱叱曳ニ竹筇一。槍影參添景雲外。刀光閃爍瑞日中。荷擔在レ肩行且止。如レ仰如レ俯影成レ雙。少焉玉輿從レ遠至。赳赳武夫前後從。隊伍肅然存ニ戒敬一。斬レ賊劍兮破魔弓。儀仗渡罷遊人續。橋上橋下綺羅叢。何來鵬機轉一轉。華箋繽紛自レ天降。茲開ニ祝筵一勞ニ衆客一。萬歲聲高震ニ簾櫳一。人稱風光似ニ京洛一。山紫水明靈秀鍾。况有ニ錦橋奇觀在。君公創業衆所レ崇。當路ニ講セシム建碑策一。爲題人傑廣嘉公。

○和田邊芳田祝錦帶橋再建落成

永田岳淵

維日昭和二八年。五龍興復躍ニ春天一。尤欣行列三夫婦。翁嫗先登顏色鮮。

壯哉發憤復天工。六萬鄉人力截^レ空。疊疊鱗鱗風欲^レ動。精魂永映錦江中。

憶昔封侯過渡頭。槍旄長陣夢裏浮。如今偃武時雖^レ變。古格應^レ思治亂秋。

雲來萬衆疊^レ濤過。曲曲重橋壓^ニ錦河。煙火劈^レ天歡動^レ地。群童旌列又如^レ波。

○和熊谷翠軒觀^ニ錦帶橋渡初之式^ニ有^レ感

永田岳淵

南海捲來暴雨風。濁流覆^レ礎若^レ轉^レ石。築石亂^レ算跡荒廢。鱗角委^レ水失^ニ神通。噫藩公三百年業。一朝災
變沒^ニ卓功。世間何人不^ニ嗟歎。俯仰綿綿憶^ニ五龍。市民發^レ憤蹶然起。復建努力遂不^レ空。維時昭和歲癸
巳。春王正月祝^ニ完工。烟火數番破^レ雲發。翔機幾旋舞^ニ蒼穹。嘉例先登三夫婦。瑞氣鑾韃八嫗翁。隨從
初渡長陣客。得意揚^レ筇語^ニ興隆。軫看槍戟一隊士。旄鬱翩^レ風紫霞中。揚^レ脚舞^レ手縱又合。行止單單也
雙雙。中列籃輿嚴^ニ警蹕。衛士按^レ劍左右從。彎彎喊聲斷續去。五曲高低列如^レ弓。目送昭和人隔^レ世。古
式迢迢夢似^レ叢。城山錦川千年緣。儀仗長傳氣葱葱。橋下開^レ筵群滿^レ磧。岸樓呼^レ酒人醉^レ櫂。萬戶罄^レ鍾
日未^レ落。眼中飛橋獨豪雄。嗚呼偉哉斯宏蹟。創巧絕代東西崇。如^ニ教^下翠軒一刻^中碑銘^上。爲題人傑廣嘉公。

錦帶橋諷詠文章漢詩和歌俳句民謡謠曲

終

昭和二十八年十二月十七日印刷 定價 八百円

昭和二十八年十二月廿五日發行

五拾円

著者 永田新之允

岩国市大字麻里布町駅前北通八番地
岩國觀光協会会长

発行者 戸崎芳男



印刷者 広田彰造

広島市西觀音町二丁目三一三之一

印刷所 鯉城印刷株式会社

岩国市大字麻里布町駅前北通八番地

岩国商工会館内

錦橋帶史

発行所 岩国觀光協会

電話九四四番